

アンカー

37号

Anchor

2006年6月



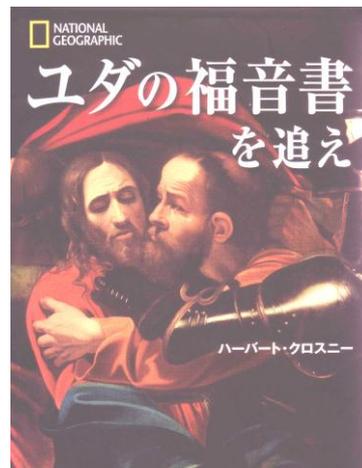
米国「十戒デー」祝典の意味

新共同訳についての
世界総会とのやりとり
—そのいきさつ

パイナップル・ストーリー



預言の霊は現代医科学
の100年も先端を行く



全米初の「十戒デー」と聖書に対する冒瀆的攻撃

2006年5月にアメリカにおいて、聖書と神の律法に対する二つの運動が現れた。

一つは、聖書と律法への攻撃的な運動としてハリウッドによって「ダ・ビンチ・コード」がついに映画化されたことと、ナショナルジオグラフィック誌による歴史を覆す世紀の発見「ユダの福音書を追え」の掲載である(5月号)。

もう一つはそれとは相反する運動、神の十戒を高く掲げようとする「5月7日十戒デー」の運動である。

神聖な聖書と十戒に対する攻撃が映画と世界的有名誌によってなされたばかりであるが、それは全世界の世俗社会に大きな影響を及ぼすことであろう。

「ダ・ビンチ・コード」は、架空のスリル小説でイエスとマグダラのマリアが結婚して一子を儲けたとするもので、この小説は2003年に出版されて以来、4千万部以上も販売されており、それが映画化されたことにより、もはやクリスチャンも看過出来ない状況になっている。

「ユダの福音書」は、歴史を覆す世紀の大発見というのである。この1700年前のパピルス文書は、聖書で言われているユダが、裏切り者ではなかったとする衝撃的な物語である。イスカリオテのユダとの対話でイエスが語った「秘密の啓示」によると、二人の間に密約が交わされ「お前は真の私を包むこの肉体を犠牲とし、すべての弟子たちを越える存在になるだろう」とされている。



皮肉なことに、このようなサタンのような攻撃が聖書と十戒になされる同じ月に、アメリカの基督教、ユダヤ教諸団体は、初めて5月7日を「十戒デー」と定め、全国の宗教団体にこの日を祝うように呼びかけているのである。

十戒委員会The Ten Commandments commission(TCC)は、今日目撃されるあらゆる不安の要素を憂い、また今まであった十戒の展示を公的な場所から除こうという裁判所の判決がなされて後、2005年の春に組織された。アメリカの社会情勢、道徳はますます悪化している。偉大な国の道義的な基礎と錨の役割をしてきた十戒の展示を公共の場から取り除くなら、米国の構造と文化と伝統の基礎を脅やかすことになるというのである。アメリカ合衆国の「One Nation Under God一神の下にある一つの国」という道義的な遺産が破壊されつつあることを憂いて、十戒をアメリカ国民にもう一度復興しようと、初めて今年5月7日を「十戒デー」と定め、全国的に祝おうと呼びかけるに至ったのである。主だった種々の宗派の有名なTV伝道者、牧師、教育家などが名を連ねている。道徳律—十戒の重要性をアメリカ国民に認識させることはすばらしいことである。

「この運動の焦点は、来年2007年5月6日(日曜日)に開かれる『十戒デー』である。その日には、その地域社会でユダヤ・キリスト教の伝統的な十戒を支持するために祝典に参加するようにすべての者に呼びかける。その日には、すべての参加者に十戒ピンをつけるように奨励する。...その十戒デーには、我々は一致団結して一つの声として、我々の国を偉大ならしめた根本原則に揺るがない支持を与えるよう求め、強力なディスプレイ(誇示)を提供するつもりである。」
TCC声明文より

その支持者に、強力な有名人の名がたくさん連ねられている。

米国のセブンスデー・アドベンチスト教会のある団体は、これぞチャンスということでテレビや書籍、トラクトを通し、十戒を掲げると同時に、第四条の七日目安息日を掲げるために働いたようである。

セブンスデー・アドベンチストにとって、保守的な宗教指導者たちが一致してこのような顕著な働きを展開するようになってきていることは何を意味するだろうか？

黙示録13:11の「地から上って」来る獣はアメリカ合衆国である。この小羊のような角をもった獣は、龍のようにものを語ることになっている。「国家が『物を言う』とは、その立法および司法権の活動のことである。」大争闘下161

預言の霊から引用しよう:

「プロテスタント教会内の大きな信仰の差異は、どんなに努力しても一致を図ることはできないということの決定的証拠であると考える人が多い。しかし、ここ数年にわたって、プロテスタントの諸教会内において共通の教義を土台として合同しようとする気運が強く動き出している。このような合同を達成するためには、たとえ聖書の見地からどんなに重要なものであっても、すべての者が一致しない問題点は、必然的に放棄されねばならなくなる。」大争闘下164

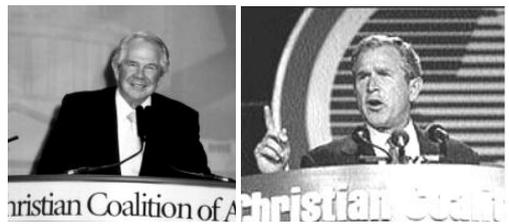
「米国の主要な教会が、その共通の教理において合同し、国家を動かして教会の法令を施行させ、教会の制度を支持させるようになるそのときに、プロテスタント・アメリカは、ローマ法王制の像を造り、その必然の結果として、反対者たちに法律上の刑罰を加えることになるのである。」
同上165

このような動きは水面下でなされてきた。しかし、今や表面に現れはじめている。キリスト教連合会の創始者パット・ロバートソンは、「我々が政府をのっとるのだ」と主張した。クリスチャン・コーリション=キリスト教連合会は、超教派のクリスチャンの政治的団体である。

サムエル・バキオキ博士は、次のようにコメントしている:

「しかし、我々は、この運動の最も強力な推進者たちのある者たちが、我々の最も苦い敵でもあることを忘れてはならない。私は、我が教会に対する彼らのある者たちの攻撃に対応するためにどれだけ時間を費やしたか分からない。彼らは、我々のことを不快な律法主義の分派(セクト)であると誹謗し、中傷することを喜んでいる。このように神の律法の祝典が将来、我々の宗教自由を脅かす引き金となり得ることを覚え、警戒しようではないか。」

ENDTIME ISSUES NEWSLETTER No. 144



キリスト教連合会のロバートソンと
ブッシュ大統領

やがて、米国において日曜日を主の日として立法化するのは、それほど遠くはない。

フロリダの海岸で、たくさんの人々が海水浴を楽しんでいる。警備員が物見やぐらに立って海岸を見張っている。もし大きな黒い物体が水面下にうろうろしているのが見えてきたらどうするだろうか？この黒い物体、人食いざめが突然襲いかかるまで待つだろうか？楽しんでいる人々からは見えなくとも、バカにされようとも警告を発しないであろうか？

神の民にとって、恐ろしい試練が近づいている。もはや宗教自由を楽しめなくなる。永遠の運命が決定される日曜休業令が出され、獣の刻印がない者には売ったり、買ったりも許されない時が来る。

ハバク2:1「わたしはわたしの見張所に立ち、物見やぐらに身を置き、望み見て、彼がわたしになんと語られるかを見、またわたしの訴えについてわたし自らなんと答えたらよかろうかを見よう。」

現代「東の国の博士たち」の証言

現代健康学と証の書

キリスト初臨のとき、メシア誕生の知らせを受けた当時のセブンスデー・アドベンチストはごく少数であった。神は異教の博士たちに真理の光をお与えになった。

今日も同じようなことが起こるのだろうか？ 預言されたとおりに、今日、教会において、預言の霊＝証の書に対する不信、軽視が目立ってきた。一方、食事と食物に関する証の書の正しいことが、世の科学者によって証言されつつある。

食事と食物に関する証の書のメッセージは、エレン・G・ホワイトが真の預言者であるとの確信を抱かせる。

預言の霊＝証の書(ホワイト夫人の著書)は科学のずっと先端を行く

「預言の霊と医科学」という本から引用しよう：

ワシントンD.C.の有名なサクソン医師は次のように言っている：

「預言の霊は、医科学の先端を行っている。私は医学を始める前に、エレン・G・ホワイトの書物によって、その健康に関する考えをよく知っていた。医科大学を終わって19年間医療にたずさわってきたが、私はホワイト夫人の書物から得た医学の考えの一つも変えたことはないばかりか、かえって医学の研究がすすむにつれて医科学の考えが改定されてきたのである。.... 医科学が進歩するにつれ、これら(証の書)の指導は時代遅れどころか、健康の多くの問題に関して現代医学の先端を行っているのである。

医科学が預言の霊と一致しないように思えるとき、もう少し時間が与えられると医学の研究は靈感のメッセージと同じ結論に到達するのである。こういうことは、過去19年間に何回も起こった。医学書の研究は、ホワイト夫人によって与えられた情報は、科学的支持があることを示している。

私は預言の霊の健康に関する情報は、まだ証明されていなくとも何の危険もなく信仰によって受け入れることができると確信を持っている。このような信仰は、科学的確証が明らかになったとき置き換えられてきたのである」(医科学と預言の霊 Medial Science and the Spirit of Prophecy) 3ページ。

かつてのニューヨークの Cornell 大学栄養学教授、クリーブ・マッケイ博士は、1958年に大講演で次のようなことを言明した：

「1915年に、アメリカが生んだ最も驚くべき女性のひとりが88歳の熟年で死んだ。彼女の名前はエレン・G・ホワイトである。彼女は、たった数年の小学校の学歴しかないのに、彼女の著書は今の時点でも60冊はある。これらのあるものは、彼女についてかあるいは彼女の講演からの編集である。残念なことに、これらの著書はわずかな書店で宗教書として埋もれていて預言の霊としてカタログに載せられている。エレン・G・ホワイトの栄養に関する最たる本は、食事と食物に関する勧告という本である。これは、1863年の戦争時から1909年、あるいは第一次世界大戦のころまでの抄録である....

エレン・G・ホワイトの書物は、... 体全体に関わる栄養のガイドを与えている。過去に書かれたこの多くの知恵は、今日理解されていない。そして我々は、ビタミンや微量ミネラルの混合物や濃縮プロテインで奇跡を達成しようとしている。

エレン・G・ホワイトは現代生化学... また食品分析学が生まれる前に死んだ...。しかし、今日でさえも人々が彼女の計画に従うなら、自分たちが悪い食事をして奇跡的食品で補おうとするより、はるかに良く養われるであろう。彼女は、単純な自然の食事、すなわち脂肪の少ない、塩分の低い、良く準備された適度な量を主張された。彼女は菜食主義になっていったが、卵とミルクを含む食事が彼女の通常の食事であった... エレン・G・ホワイトのような指導者の書物を幾たびも繰り返して読むことは、もし、我々が正しい魂を持つと思うなら、いかに健康的な食事をして健康な体を作ることが重要かということである。」 同上4, 5 ページ。

マッケーイ博士はしばしば、セブンスデー・アドベンチストはホワイト夫人の健康の書物にどんなにすばらしい宝を持っているかということに言及した。1958年ニューヨークのユニタリアン教会のメンズ・クラブで次のような結論を述べられた:

「ホワイト夫人のミニストリー・オブ・ヒーリングや食事と食物に関する勧告のような著書を読む時、人は現代栄養学の光に照らして彼女の教えの正確性に深い感銘を受けるであろう。一般のアメリカ人が現代科学についてほとんど何も知らなくてもホワイト夫人の教えに従っていたなら、どんなに優れた健康を楽しむことかと思わされるのである。」 同上5ページ。

セブンスデー・アドベンチストでない科学者のこのような証言は、多くの再臨信徒に対して何という警告であろう！こんなにすばらしい完全な健康に導く宝が与えられていながら、我々は世の人と同じ生活習慣、食生活習慣に満足して一歩も進歩しないのは、何という皮肉なことであろう。

憐れみ深い神は、不信心な我々のために忍耐深く証拠を与えられることを感謝したい。「神は正直な心に信じるに十分な証拠をお与えになる。」 5 T675 証拠は時々、自然科学の中に見出される。

「神は科学の著者である。科学の研究は、たくさんの思想と情報を開いてくれる... 真の科学は神の新鮮な知恵と力を与えるのである。」 CT426

ホワイト夫人は、1901年に彼女の栄養の情報について次のように言われた:

「なぜ、そうなのかわたしは知らないが、わたしは、わたしに与えられた教えをあなたがたに与えるのである。」 CD344

ホワイト夫人は病気の原因、治療、栄養、運動、精神と身体の関係、子供の誕生、しつけ、教育、環境汚染、実に多方面にわたって、科学の先端を行っていた。

ホワイト夫人は、1905年に「ガンの菌」「伝染性」のことを言われた。その時の科学に、そんなものはないし、ガンの伝染性などないと言っていた。50年経って、カリフォルニアのウエンデル・スタンレーが、1956年に初めて、ガンの原因がウイルスであると発表するにいたった(ミニストリー289)。

この地上の最高の思想よりも更にさらに高い神の靈感に信仰によって従うことがどんなに得することか、改めて感じるがあったので紹介したい。

それは新谷弘実博士の本である。彼は、世界で初めて大腸内視鏡の挿入法を考案し、開腹手術することなく大腸内視鏡によるポリープ切除に成功した。

「病気になる生き方」～ 食歴と生活習慣が要因



「病気になる生き方」という本を購入しました。新谷弘美氏という胃腸内視外科医のドクターが書いた本です。30万例以上の胃腸を検査してきた著者は、膨大な臨床結果から、「食歴」と「生活習慣」がその人の健康状態を決める最大の要因であることをつきとめました。

私が感動したのは、彼の食事と食物に関する勧告はホワイト夫人のそれとほとんど同じで、現代人ばかりでなく、現代イスラエル(SDA)に対する警告であり勧告であるということである。ぜひ読んでいただ

きたいと強くお勧めしたい。現代の科学者を通して、150年前にわが教会に与えられた証の書に対する確信が与えられることであろう。

内容：全米ナンバーワンの胃腸内視鏡外科医が教える「太く、長く、生きる方法」に触れてみてください。

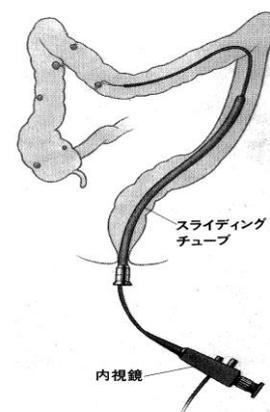
本書は、誰もが共通してもつそんな夢のような願望をかなえようという本です。では、どうすれば健康で長生きできるのか。ひとことでいうと、ミラクル・エンザイムを消耗しない生活を送り、食事を通じてミラクル・エンザイムをとり入れることだと、著者は語っています。

これまで30万例以上の胃腸を検査してきた著者は、その膨大な臨床結果から、「食歴」と「生活習慣」こそがその人の健康状態を決める最大の要因であることをつきとめました。そして、何がミラクル・エンザイムを消耗させ、何がミラクル・エンザイムを補うのかがわかれば、日々のちょっとした努力で、「病気にならずに天寿をまっとうすることができる」というのです。

【目次より】

- ◎四十年間、私が死亡診断書を書かなかった理由
- ◎元気な百歳になる方法
- ◎薬はすべて基本的に「毒」である
- ◎「よくかむ」「腹八分目」が健康によい理由
- ◎病気の大半は遺伝よりも習慣に原因がある
- ◎運動の「しすぎ」は百害あって一利なし
- マーガリンほど体に悪い油はない
- ◎チャップリンが七十三歳で子供をつくったワケ
- ◎「愛」は免疫力を活性化させる
- ◎すべては「命のシナリオ」に書き込まれている

内視鏡によるポリープの切除と回収



スライディングチューブを使って、多数のポリープを切除・回収する。スライディングチューブを使えば、スコープの出し入れが容易に、何度でもできる。

全米ナンバーワンの胃腸内視鏡外科医、米国アルバート・アインシュタイン医科大学外科教授の新谷弘美博士の「病気にならない生き方」は販売数69万冊にも達しました。

新谷弘美博士の言葉：

「私がこれまで診てきた患者さんのなかには、もちろん有名な人もいます。ロックスターのステイニング、デザイナーのヴェラ・ワン、俳優ではダスティン・ホフマン、ジェニファー・ジョーンズ、ケヴィン・クライン、ロック・ハドソン(故人) など、有名な患者さんは数え上げるときりがありません。レーガン大統領の在任中には、彼の医師団に対してさまざまなアドバイスを施し、いわば顧問医のような立場でもありました。

日本でも、中曽根康弘元首相、羽田孜元首相、細川護国元首相、読売新聞グループ本社会長の渡邊恒雄氏、元プロ野球監督の野村克也氏、ノーベル賞受賞者の江崎玲於奈氏、ウシオ電機会長の牛尾治朗氏、俳優の津川雅彦さんや竹下景子さんなど、各界のそうそうたる方々から、私の食事健康法について過分なくらいおほめの言葉を頂戴しております。

なぜこのようなことを書き連ねたかという、別に私は自慢したいわけではありません。

ただ、私が本書でこれからお伝えしようと思っている健康法に少しでも関心をもってもらいたいと思って、わざわざ著名な方々のお名前をお借りしたわけです」

野村克也プロ野球監督は次のように言っている：

「長生きの秘訣がどっさりと詰まった本でした。読むとかなりショックを受けますが、おかげさまで十年くらい寿命は伸びそうです。」

では、新谷弘実博士の主張と 150 年前に書かれた証の書を比べてみよう：

緑茶について：

たしかに緑茶に多く含まれるカテキンには、殺菌効果や抗酸化作用があります。そのため日本茶をたくさん飲んでいけば長生きするとか、ガンの予防につながるというストーリーが生まれました。でも私は、こうした「カテキン神話」にかねがね疑問を抱いていました。それは、先にも触れましたが、「お茶をたくさん飲む習慣がある人の胃相は悪い」という臨床データが出ていたからです。

お茶に含まれるカテキンが、抗酸化作用をもつポリフェノールの一種であることは間違いではありません。しかし、そのカテキンはいくつか結合すると「タンニン」とよばれるものになります。

タンニンというのは、植物がもつ「渋み」成分であることから、日本では昔から「渋」と称されてきました。柿の「渋」もこのタンニンです。タンニンは非常に酸化しやすい性質をもっており、熱湯や空気に触れることによって、容易に「タンニン酸」に変化します。

そしてタンニン酸には、タンパクを凝固させる働きがあります。ここからは私の仮説ですが、こうしたお茶に含まれるタンニン酸が、胃粘膜に悪い影響をおよぼし、胃相を悪くしているのだと考えられます。

事実、タンニン酸を多く含むお茶（緑茶、中国茶、紅茶、コーヒー、どくだみ茶、杜仲茶^{とちゅう茶}など）を常飲している人の胃を内視鏡で見ると、粘膜が薄くなる萎縮性変化が起きていることがよくあります。慢性の萎縮性変化、または萎縮性胃炎は、胃ガンになりやすくすることがわかっています。

そして、この説を裏付けるように、2003年の9月には、日本癌学会において三重大学の川西正祐教授（衛生学）らが、カテキンによりDNAが損傷するというレポートを発表しておられます。

お茶がもたらす危険はそれだけではありません。現在市販されているお茶の多くは、その栽培過程で農薬が使われているからです。

残存農薬やタンニン酸、さらにカフェインの影響を考えると、お茶を水代わりに飲むのはお勧めできません。お茶が好きな方は、無農薬栽培の茶葉を使い、比較的胃粘膜に負担がかからないように空腹時を避け、食後に飲む。そして、一日二、三杯程度にとどめるようにしてください。

このように誤った情報を多くの人が信じてしまうのは、いまの医学が人間の体を全体として見ていないからだだと思います。人間の体はすべてつながっています。一つの場所でよい働きをする成分が含まれているからといって、それが体全体にとってもよいとは限りません。「木を見て森を見ず」という言葉がありますが、食べ物も、そこに含まれる一つの成分だけを見て、体によいとか悪いとか決めることはできないのです。

預言の霊

「茶は刺激物として作用し、ある程度、中毒を起す。コーヒー、その他の一般飲料の多くがこれと同じ影響を及ぼす。その第一は気分を浮き立たせ、胃の神経を興奮させ、脳を刺激する。こうして脳より今度は心臓の運動量を増大させ、全身の組織に一時的の活力をおこす。すると疲労が消え、力がついたように感ずる。知能はよみがえり、想像力は非常に活発になる。

こうした結果から多くの人が茶やコーヒーは身体のために非常によいと思っている。しかしこれはまちがいであって、茶やコーヒーは身体組織の栄養とならない。その影響は消化や同化が始まらないうちに生じ、力が出たように感ずるのは単なる神経の興奮にすぎない。刺激物の影響が消えると、この不自然な力もなくなり、その結果、興奮の度に相当した倦怠と衰弱が生じる。」 ミニストーリー-299

※ 免疫学者、新潟大学大学院医学部教授 安保徹博士の証言：

「お茶などに含まれているカテキンやカフェインは栄養にならない毒物です。このような毒物は、少量を摂取するならいいのですが、たくさん摂り過ぎると危険です。カテキンとカフェインは、まず副交感反射を起こします。だから、お茶は利尿作用があつて、飲むとおしっこに行きたくなります。

しかし、摂り過ぎると、脈が速くなって交感神経緊張状態になります。カフェインが含まれるコーヒーもそうですが、お茶を飲みすぎると、かえって喉が渇きます。それは交感神経が緊張するから

です。

ですからお茶やコーヒーは飲みすぎると免疫力が高まるどころか、かえって逆効果になってしまいます。．．．

よく、お茶は体にいいからとたくさん飲む人がいますが、飲みすぎはかえってよくないということを理解してください。これは日本茶だけでなく、同じようにカフェインなどが含まれているコーヒー、ウーロン茶、紅茶なども同様です」ガン、免疫力87ページ

肉食について：

1977年、アメリカで食と健康に関する非常に興味深いレポートが発表されました。そのレポートは、発表した上院議員ジョージ・S・マクガバン氏の名を取って「マクガバン・レポート」と呼ばれています。

当時、このレポートがまとめられた背景には、アメリカの国家財政を圧迫するほどの巨額にふくれ上がった医療費の問題がありました。医学が進歩しているにもかかわらず、ガンや心臓病をはじめとする病気にかかる人の数は年々増えつづけ、それに伴い国家が負担する医療費も増えつづけ、ついには国家財政そのものをおびやかすところまで迫っていたのです。なんとかしてアメリカ国民が病気になる原因を解明し、根本的な対策を立てなければ、アメリカは病気によって破産してしまうかもしれない。そんな危機感から、上院に「国民栄養問題アメリカ上院特別委員会」が設立されたのです。マクガバン氏はその委員長でした。

委員会のメンバーは、世界中から食と健康に関する資料を集め、当時最高レベルの医学・栄養学の専門家らとともに「病気が増えている原因」を研究・調査しました。その結果をまとめたのが、五千ページにもおよぶ「マクガバン・レポート」です。

このレポートの公表は、アメリカ国民に大きな選択を迫ることになりました。なぜならそこには、多くの病気の原因がこれまでの「間違っただけの食生活」にあると結論づけられていたからです。そして、いまの食生活を改めないかぎり、アメリカ人が健康になる方法はないと断言していたのです。

当時アメリカでは、分厚いステーキのような高タンパク・高脂肪の食事が食卓の主役でした。タンパク質は体を構成するもっとも基本的な物質ですから、体をつくるうえでとても大切な栄養素だといえます。そのため、動物性タンパクをたくさん含んだ食事をとることが、スポーツ選手や成長期の若者はもちろん、体の弱い人やお年寄りにもよいとされていました。日本で根強い「肉こそ活力の源」という考えは、このころのアメリカ栄養学の影響です。

ところが「マクガバン・レポート」は、こうした当時の食の常識を真っ向から否定しました。そして、もっとも理想的な食事と定義したのは、なんと元禄時代以前の日本の食事でした。元禄時代以前の食事というのは、精白しない穀類を主食に、おかずは季節の野菜や海藻類、動物性タンパク質は小さな魚介類を少量といったものです。

近年、日本食が健康食として世界的な注目を集めるようになったのは、じつはこれがきっかけなのです。

たしかに、肉を食べなければ筋肉が育たないというのは、真っ赤なウソです。これは自然界を見ればわかります。

肉食動物の代表ライオンは、とても強いので、さぞかし立派な筋肉をもっているのだろうと思いがちですが、実際には馬や鹿のような草食動物のほうが、はるかに発達した筋肉をもっています。その証拠に、ライオンや虎は、獲物を捕らえるとき長々と追いかけてはしません。彼らが得意とするのは、瞬発力を生かしたスピード勝負です。これは持久力では、筋肉の発達した草食動物にかなわないことを彼ら自身が知っているからです。

肉を食べなければ体が大きくなるというのもウソです。象やキリンはライオンや虎の何倍もの大きさがありますが、彼らは草食動物です。

ただし、動物性タンパクをたくさん食べると人間の成長が速くなるということは事実です。最近の子供たちの成長スピードが速いのは、動物性タンパクの摂取量が増えたためと考えられています。

しかし、ここにも動物食の危険な落とし穴があります。それは「成長」はある年齢を超えた時点で「老化」と呼ばれる現象に変わるということです。つまり、成長を速める動物食は、別の言い方をすれば、老化を速める食事ということになるのです。

お肉を好んで食べている人は、それがあなたの健康を害し、老化を進めているということをおいてください。

人間より体温の高い動物の肉は血を汚す

新谷食事健康法では、穀物と野菜中心の食事をし、肉、魚、乳製品、卵などの動物性の食物はなるべく少なく（全体の15%以下）するよう指導しています。

動物食に含まれるタンパク質は、現在の栄養学では理想的なものが多く、腸内でアミノ酸に分解・吸収され、血や肉になるとされています。

しかし、どんなによい食物であっても必要以上にとりすぎれば、体にとっては毒になります。とくに動物性タンパク質は、大量にとりすぎると、胃腸で分解・吸収が完全にしきれず、腸内で腐敗し、大量の毒素を作り出してしまいます。その毒素のおもなものは、硫化水素、インドール、メタンガス、アンモニア、ヒスタミン、ニトロソアミンなどですが、それに加えてフリーラジカルも作られます。そして、こうした毒素を解毒するために、腸内や肝臓で大量のエンザイムが消費されるのです。

牛や豚や鳥の体温は、人間よりも高い38.5～40度。鶏の体温はそれよりもさらに高い41.5度です。こうした人間よりも高い体温の動物の脂は、その温度でもっとも安定した状態にあるということです。つまり、それよりも体温の低い人間の体内に入ったときには、ベタツと固まってしまう。この脂のべたつきが、血液をドロドロにしてしまうのです。ドロドロになった血液は、流れが悪くなり血管の中で停滞したり詰まったりします。これを私は「血が汚れる」と称しています。

※ 魚は新鮮なうちに食べるのがコツとされているが、我々は魚の汚染も考えて聖書の指針に従うことが賢い。魚も肉である。魚は確かにオメガ3、オメガ6が含まれていいとされているが、最近では、水銀、カドミウム、鉛などに汚染されているためさげなければならない。完全菜食の時代が来たのではないだろうか。

世界のトップの栄養学者たちの証言：

◆ E.V. マックローム博士(ジョン・ホプキン大学栄養学者)

「動物や人間による実験の結果、肉は人間の食事に必要でないことを証明した。」

◆ ヒンデヘッド博士(デンマークの栄養学者)

「肉食は今まで最上の食物と思われてきた。しかし、わたしはそれを最低におく…。肉はなくてもすむばかりでなく、もし多くとれば直接有害となる。」

◆ フレデリック・ステアー博士(ハーバード大学)

「材木伐採人はたくさんの赤肉を要求するだろうが、その要求は習慣によるのであって、栄養学的、医学的な根拠によるのではない。十分なカロリー源があり、精白しない穀類がある限り、タンパク不足になることはない。」

そのほか、多くの権威者の言葉を引用できるが、紙面が許さない。

預言の霊

「肉は、人間の身体組織の中に取り入れられる最大の病気の張本人である。」

「肉食によって10倍も病気にかかりやすくなる。知的、道徳的、肉体的力は習慣的な肉類の摂取によって損なわれる。肉食は身体組織を狂わせ、知性を曇らせ、道徳的感覚を鈍らせる。」

「ガン、腫瘍、肺疾患は大部分肉食によって起こされる。」

「わたしはたびたび、神が我々を一步一步当初の計画に導こうとしていることを示された。すなわち、人間は地から自然に産出されるものによって生きるべきである。」

「野菜、果物、穀類が我々の食事を構成しなければならない。肉の一切れでも我々の胃袋に入ってはならない。肉を食べることは不自然である。」

「教えと模範によって、神が罪のない状態にあったアダムに与えられた食物が、罪のない状態に到達しようと望む人々にとって最上であることを明確にした。」

「穀類、野菜、果物、ナッツ類には、必要なすべての栄養素がある。」

こんなにありがたい健康に関する光が神の民に与えられているのである。多くの科学の証言も与えられているにもかかわらず、セブンスデー・アドベンチスト信者のどれくらいの人がこのことに留意しているだろうか！

日本人の胃ガン発生率はアメリカ人の十倍：

腸相は肉食文化の影響でアメリカ人のほうが悪いのですが、胃相はじつは日本人のほうがアメリカ人より悪い人がはるかに多いのです。私はアメリカ人と日本人、両方の胃を診ていますが、胃の粘膜が薄くなる萎縮性胃炎になる人は、私の臨床経験では日本人のほうが二十倍近くも多いのです。そして、萎縮性胃炎は胃ガンを発生させることが多いため、胃ガン発生率も日本人のほうが十倍も多いのです。

現在、アメリカも日本も肥満は大きな問題となっていますが、アメリカ人のような太り方をしている日本人はあまりいません。じつは日本人はあそこまで太ることができないのです。そのことは、太ることが義務づけられているお相撲さんの世界でも、小錦のような体になれる日本人力士がいなかったことからわかります。

日本人があそこまで太れないのは、そこまでいく前に胃を悪くして食べられなくなってしまうからです。つまり、アメリカ人があそこまで太れるのは、それだけ消化器官が丈夫だからといえます。

夕食について： 寝る前に胃はからっぽにする：

夕食は寝る4～5時間前には終え、寝るときに胃を空っぽの状態にしておくことです。

これで睡眠時無呼吸症候群は治る

人間の気管というのは、空気以外のものが入らないような仕組みになっています。しかし、寝る前に胃にもものが入っていると、横になることでその内容物がのどまで上がってきてしまいます。すると体は、気管にその内容物が入らないように、気道を狭め、呼吸を止めてしまうのです。これが著しく気道が狭くなる「閉塞型」の原因だと私は考えています。

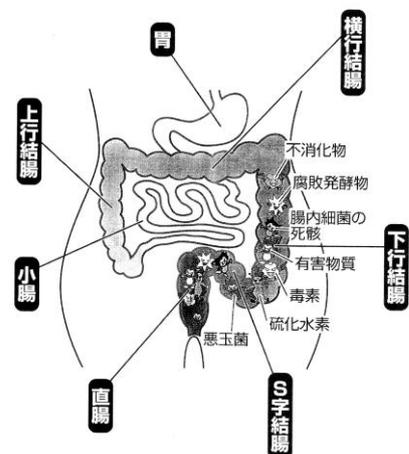
睡眠時無呼吸症候群の患者のほとんどが肥満であるということも、この私の仮説と符合します。

夜寝る前に食事をとると、インシュリンが大量に分泌されるのですが、インシュリンは、炭水化物もタンパク質も、すべて脂肪に変えてしまうため、同じものを食べても夜遅く食べると太りやすくなることがわかっているからです。つまり、肥満だから睡眠時無呼吸症候群になるのではなく、寝る前にもものを食べるという習慣が、睡眠時無呼吸症候群の発病と肥満の原因を同時につくり出しているということです。

食事に限らず、夜寝る前に胃にもものを入れるというのは「悪い習慣」です。

睡眠薬を飲むよりいいからと、「寝酒」を習慣にしている人がいますが、これも危険です。本人は寝つきがよくなるといいますが、寝ている間に呼吸が止まりやすくなるため、血液中の酸素濃度(PO₂)が低下してしまいます。もともと動脈硬化があったり、心冠動脈の細い人にとっては、酸素濃度の低下は心筋の酸欠を招き、文字どおり命取りになってしまいます。夜明けに心臓麻痺や心筋梗塞で亡くなる人が多いのは、じつはこのように夜遅くに飲食したために逆流が起こり、それによって気道をふさぎ、無呼吸を招き、血液中の酸素濃度が低下し、心筋が酸欠で壊死してしまうのが原因なのです。

コーヒー・エネマが腸に入って宿便や悪玉菌などを押し出す



寝る前に食事だけでなくお酒まで飲むと、このリスクはさらに高まります。なぜなら、アルコールを飲むと呼吸中枢の抑制が起こり、血中の酸素濃度がさらに減少するからです。アルコール分解エンザイムの少ない人は、アルコールがより長時間血中にとどまることになるので、十分な注意が必要です。

また、よく眠れるからと子供に寝しなにホットミルクを飲ませる方がいますが、これも絶対にやめてほしい「悪い習慣」です。

子供は夕方6時ごろに夕食を食べたとしても、大人よりも早く寝かされるため、寝るときに胃にもものが入っていることが多くなります。そこにミルクを飲ませると、さらに逆流しやすくなってしまいます。そして、無呼吸が起き、次に強く息を吸ったときにぜんそくのアレルゲンとなりやすいミルクを吸い込んでしまいます。じつは、これが小児喘息の原因の一つではないかと私は考えています。

これはまだ証明されたことではないのですが、私の患者に聞き取り調査をしたデータによると、小児喘息をもっていた人というのは、子供のころに食事をしてすぐ寝かされたり、寝しなにミルクを与えられていたりした人がとても多いのです。

小児喘息、睡眠時無呼吸症候群、心筋梗塞、心臓麻痺、これらの病気を予防するためにも、胃を空にしてから寝る習慣をぜひ身につけていただきたいと思います。

夜、どうしてもおなかがすいて耐えられないという人は、フレッシュでエンザイムをいっぱい含んだ果物を少し食べるようにするといいでしょう。エンザイムを含んだ果物は非常に消化がよく、だいたい30~40分程度で胃から腸へ移動します。ですから、果物であれば、食べても一時間ぐらいたつと、横になっても逆流を起こす心配はありません。

「胃相の変化にもいろいろ個人差がありますが、特に夕食を寝る1~2時間以内に腹いっぱい食べ、タバコを吸い、酒を飲んでいるというような生活パターンをとっていたら、皆、胃が悪相になるのは間違いないことです。」胃腸は語る、46

預言の霊

食事と食物に関する勧告272番：夕食の時間が早すぎると、前の食事の消化にさしつかえる。夕食の時間がおそすぎると就寝前に消化しきれない。そのために胃は適度な休息をとることができない。睡眠が妨げられ、頭脳と神経が疲れ、朝食の食欲が減退し、心身の元気が回復されないで、その日の仕事にさしつかえる。

健やか384番：三度目の食事をとるとすれば、就寝数時間前に軽く済ませるべきである。

ミニストーリー280：おそく夕食をとる結果、消化作用は睡眠中にも継続する。胃は絶えず働くが、その働きは完成されない。不快な夢で睡眠がしばしば妨げられ、翌朝目がさめても快い気分になれず、朝食がおいしくない。わたしたちは休むために横になるときは胃が働きをすっかり終え、他の器官と同じように休息を楽しむ状態であればならない。あまり運動をしない人は夕食がおそくなるのは特に有害である。これがもついでついに死ぬべき病気をひき起こすことがよくある。

薬はすべて基本的に「毒」である：

日本人は、とても気軽に「薬」を服用します。でも薬はすべて基本的には体にとって「毒」だということを覚えておいてください。化学薬品を嫌う人でも、漢方薬なら副作用もなく体に害がないと信じている人がいますが、それも間違いです。漢方薬であろうが、化学薬品であろうが、薬が体にとって毒であることに変わりはありません。

私は19歳のときにインフルエンザにかかったのを最後に、病気というものにかかったことがありません。そのため薬もほとんど飲んだことがないのです。私のように何十年も薬を飲まず、酒やたばこはもちろん、農薬や食品添加物の入らない食事を続けていると、少しでも「薬」が入ると体は非常に敏感に反応します。たとえば、化学調味料の入ったみそ汁を飲むと、脈拍が20ぐらひ多くなり、顔にカーッと血が上っていくのがはっきりとわかりますし、コーヒーをカップに一杯飲んだだけでも、血圧が10~20は上がります。

私のように少量の薬にも反応する人をいまでは「薬品過敏症」というようですが、私にいわせればそれはまったくの逆です。人間の体というのは、本来こうしたものなのです。

多くの人のほうが、酒やたばこ、コーヒーや紅茶などの嗜好品を常用したり、食品添加物や化学調味

料を使った食事を日常的にとっているため、薬に対する耐性ができ、刺激に鈍感になってしまっているのです。

しかし、そんな私も医者なので、必要に応じて患者さんたちに薬を処方することがあります。処方する以上、医者にはできるだけ体に負担の少ない薬を選ぶ責任があります。その薬を処方量の四分の一とか八分の一ぐらい飲んでみて、体にどのような反応が起きるのか、人体実験をして確かめるようにしていました。

もちろんアメリカには薬の副作用についてこと細かく書かれたものがあります。それでも自分で飲んでみないと、本当のところはわかりません。実際、説明書にはない反応が表れることも少なくありません。こうして患者さんには、自分の体験と、公にされている副作用の両方を説明し、納得してもらったうえで「薬」を飲んでいただいているのです。

でも、いまはもう薬を自分の体で試すことはしていません。なぜならある薬をいつものように処方する前に自分の体で試したとき、死にそうな目にあったからです。その薬は「バイアグラ」です。

最初私は、いつものようにいちばん小さな50ミリグラムの錠剤を四分の一に割って飲んでみようと思いました。ところがバイアグラの錠剤はとてほかたく、どうしてもうまく割れません。そこで少し削った粉を指先につけてなめました。ですから、実際に飲んだ量は七分の一にも満たない量だったと思います。それでもその後の苦しみは大変なものでした。いまにして思えば、あれ以上飲まなくて本当によかったと思います。

変化はわずか十分ほどで表れました。まず最初に私の体に表れた反応は、鼻詰まりでした。そして息苦しくなったと思ったら、次には顔がウワーツとはれたような感じがしてきたのです。その後も息苦しさはどんどんひどくなり、もしかしたらこのまま窒息して死んでしまうのではないかと思うほどでした。正直なところ勃起するどころではありません。本当にそのときは苦しさで強烈な不安から、心の中で「死なせないでくれ」と祈ったほどでした。

これでわかったのは、効果が早く表れる薬ほど毒性も強いということです。薬を選ぶ際には、効果の強い薬、即効性のある薬は、それだけ体に害になるということを忘れないでください。

胃腸の薬にも思わぬ副作用があるものも少なくありません。たとえば、消化性潰瘍治療薬やH2ブロッカー系の胃薬を男性が常用すると、インポテンツ(ED/勃起障害)を起こす可能性があります。さらにインポテンツにならなくても、精子の数が急激に減少するというデータも出ているのです。ですから、近年、問題となっている男性の不妊の原因も、いろいろな強い制酸剤を服用したせいであると言っても過言ではないでしょう。

病院から山のように薬を処方されるのに慣れてしまった人のなかには、自分が飲んでいるのが何の薬なのか、どのような効果と副作用があるのか、知らずに飲んでいる人もいるでしょう。しかし、どんな薬でも薬である以上、何らかのかたちで体に負担を強いているのですから、どんなリスクがあるのかきちんと知っておくべきでしょう。

胃薬を飲めば飲むほど胃は悪くなる。

胃薬を飲めば飲むほど体はダメージを負っていきます。

預言の霊

ミニストーリー96：有毒な薬品をむやみに使うことは多くの病気のもととなり、もっと悪いことの原因となる。病気になってもその原因を調べるのにほねをおることは少ない。ただ苦痛と不便を取り除くことに病人は最も心配する。その結果、実際の性質がほとんどわからない売薬にたよるか、または、自分の不健康な習慣を変えようとは考えもしないで、自己のまちがったやり方の結果を打ち消すために何らかの治療を医者に求める。そして、すぐ効果がないと、次から次へと薬をためてみる。こうして、わざわいが絶えないのである。

ミニストーリー96：薬は病気をなおさないことを人々に教えねばならない。一時的な助けとなることがあるのは確かで、薬を使ったため回復したかのようにみえるが、それは体力の中に毒素を排泄して病気を引き起していた状態をなおすに十分な活力があったからであって、薬品を使用しなくても健康は回復したのである。しかし、たいていの場合は、ただ、病気の性質と所在を変化させるにすぎない。しばしば毒素の影響が一時おさえられたようにみえるが、その結果は組織に残り、後日、非常な害を及ぼすに至る。

有毒な薬品を使用するため多くの人が終生の病を招き、自然の療法を使えば助かったのに多くの生命が失われていく。いわゆる、治療薬と呼ばれている大多数の薬品に含まれている毒は心身の破滅をきたすような習慣や食欲を作る。特許薬と呼ばれている有名な売薬中の多くのものや医者が処方したある種の薬でさえ飲酒や阿片、モルヒネの習慣の基礎を築く助けとなるが、これは社会にとって非常に恐ろしい災である。

抗ガン剤について：

様々な薬があるなかで、ミラクル・エンザイム(酵素)にとって最悪なのが「抗ガン剤」です。....

私は、抗ガン剤は猛毒以外の何ものでもないと思っているので、よほどのことがないかぎり使用しません。

たとえば、大腸の外側のリンパ腺にガンが見つかったような場合でも、私は抗ガン剤は使いません。私の治療法は、まずガンに侵された部分を切除し、目に見えるガンが一応取り除けたら、あとはその患者さんがガンになった原因と思われるものを排除していきます。まずたばこやアルコールの習慣を断つことはもちろん、肉類、牛乳、乳製品も4, 5年は完全にやめてもらいます。そして動物食を少量に抑えた新谷食事健康法を実践していただくとともに、毎日の生活に幸福感をもつていただけるよう精神面でのフォローもしていきます。こうしてガンが再発しないように体の免疫を高めていくのが、私の治療法です。

薬で病気を根本的に治すことはできません。薬は激しい痛みや出血など、どうしてもすぐに食い止めなければいけない症状を抑えるためのものと考えたほうがよいでしょう。私も胃潰瘍を起こして出血と痛みを訴えている患者さんにはH2ブロッカーのような抗酸剤を処方します。でも、その期間はどんなに長くても二〜三週間です。そして、薬で痛みを止めているあいだに、潰瘍の原因を取り除くのです。胃潰瘍の原因は、食事の量、質、時間やストレスなどさまざまですが、そうした原因が取り除かれない限り、いくら薬を飲んだところで効果はありません。一時的に薬で潰瘍が治癒したように見えたとしても、必ず再発してしまいます。

病気を根本的に治すことができるのは、日々の積み重ねだけです。ですから、原因を取り除き胃潰瘍が治ったら、その後は二度と胃潰瘍を起こさないよう、規則的な食生活と生活習慣を実践していくことが大切です。

ミラクル・エンザイムは、何もしなくても無尽蔵に作られるというものではありません。正しい食事とエンザイムをムダづかいしない生活習慣を心がけたときに、生命そのものが作り出す貴重なエネルギーのもとなのです。その貴重なミラクル・エンザイムの消耗をいかに抑えるかが、病気を治し、健康で長生きする秘訣なのです。

病人食のお粥：

入院した経験をお持ちの方はわかると思いますが、いまの病院食というのは、何かというとすぐに「お粥」を食べさせます。とくに内臓を手術した後の患者などには、「胃腸に負担をかけないように三分粥から始めましょう」と、いかにも体を思いやっているような言い方をします。でも、これは大きな間違いです。

私は、胃の手術をした患者さんにも最初から普通食を提供します。なぜお粥よりも普通食のほうがいいのか、それはエンザイムの働きを知っていればすぐにわかります。

普通食がよいのは「よくかむ」ことが必要だからです。よくかむことは唾液の分泌を促します。唾液の中には消化エンザイムが含まれており、かむことによってエンザイムと食物がよく混ざり合い、食物の分解がスムーズに進むので消化吸収がよくなるのです。

しかし、お粥だと最初からどろどろしているので、ろくにかまずに飲み込んでしまいます。そのため、やわらかいはずのお粥は、エンザイムが十分に混ざっていないため消化が悪く、よくかんだ普通食のほうが消化がよいという皮肉な結果になるのです。

私は胃の手術をした三日後の昼食に、普通のお寿司を出したこともあります。ただし、そのときには「ひとくちあたり七十回はかんでください」ときちんとして指導します。よくかむということは病人に限

らず消化吸収をスムーズに行うためにとても大切なことです。

とくに胃腸に問題のない人も 普段から30~50回はかむようにお勧めします。

預言の霊

食事と食物に関する勧告499番：穀類のお粥（かゆ）ばかり食べるのは誤りである。咀嚼しなければならぬ乾燥した食物のほうがはるかに望ましいのであって、健康食品はこの点で有益である。

食事と食物に関する勧告700番：ある人たちは、正しい食事が主としてお粥（かゆ）から成っているとまじめに考えている。大量にお粥を食べることは、消化器官の健康を保証しない。それはあまりに水っぽいからである。

ミニストリー278：穀物をおかゆやマッシュにして使う時は数時間煮なければならない。しかし、よくかまねばならぬ乾燥食品に比べると軟食や流動食は不衛生である。ズアイバック、またはオープンで二度焼いたパンは最も消化しやすく、最も美味な食物の一つである。普通に焼いたパンをうすく切って熱いオープンで湿気が全然なくなるまで乾燥させ、しんまで薄く焦がし、乾燥した所におけば普通のパンより長くもち、食前にもう一度火を通すと新しく焼いたものと同様になる。

食事と食物に関する勧告490番：ある人々は、主としてマッシュが適切な献立であると真剣に思っている。主としてマッシュを取っても、消化器官の健康は確保されない。それはあまりに流動食のようだからである。果物や野菜やパンを食べるように奨励しなさい。(Y.I., May 31, 1894)

牛乳について：

病院食によく見られるもう一つの間違ひは「牛乳」です。牛乳に含まれるおもな栄養素は、タンパク質、脂質、糖質、カルシウム、ビタミンです。なかでも牛乳は日本人に不足しがちなカルシウムを多く含むという理由で、とてももてはやされています。

でもじつは、牛乳ほど消化の悪い食物はないといっても過言ではありません。それほど牛乳は消化が悪いのです。牛乳はさらさらした液体状のものなので、のどが渴いたときに水代わりに飲む人もいますが、大きな間違いです。

牛乳に含まれるタンパク質の約八割を占める「カゼイン」は、胃に入るとすぐに固まってしまい、消化がとても悪いのです。さらに、市販の牛乳はその成分がホモゲナイズ（均等化）されています。「ホモゲナイズ」というのは、搾乳した牛乳の脂肪分を均等化させるために攪拌することをいいます。なぜホモゲナイズするのがいけないのかというと、攪拌するときに牛乳に空気が混じり、乳脂肪分が過酸化脂質になってしまうからです。

過酸化脂質というのは文字どおり、「酸化がとても進んだ脂」という意味です。わかりやすくいえば「錆びた脂」です。これは活性酸素同様、体に非常に悪い影響をおよぼします。

その錆びた脂を含んだ牛乳を、今度は100度以上の高温で殺菌します。エンザイムは熱に弱く、48度から25度の間で死滅します。つまり、市販の牛乳というのは、大切なエンザイムを含まないだけでなく、脂肪分は酸化し、タンパク質も高温のため変質しているという、ある意味で最悪の食物なのです。

その証拠に、市販の牛乳を母牛のお乳の代わりに子牛に飲ませると、その子牛は4、5日で死んでしまうそうです。エンザイムのない食物では命を養うことはできないということでしょう。

牛乳の弊害：

※ タンパク質が最も多いのはネズミの乳

アトピーや花粉症の第一の原因は1960年代初めに始められた学校給食にあると考えています。

最大の誤解は、牛乳が骨粗鬆症の予防に役立つといわれていることです。牛乳の飲み過ぎこそ骨粗鬆症を招くのです。

過酸化脂質を多く含む牛乳は、腸内環境を悪化させ悪玉菌を増やし、腸内細菌のバランスを崩しま

す。その結果、腸内には活性酸素、硫化水素、アンモニアなどの毒素が発生します。こうした毒素がどのようなプロセスを経て、どのような病気を招くのかはまだ研究途上ですが、牛乳はさまざまなアレルギーだけでなく、子供が白血病や糖尿病などシリアスな病気を発症する原因となっているという研究論文がいくつも出ています。

人間の血中カルシウム濃度は、通常9~10ミリグラム（100cc中）と一定しています。ところが、牛乳を飲むと、血中カルシウム濃度は急激に上昇するそうです。そのため一見すると、カルシウムがより多く吸収されたように思いがちですが、この「血中濃度の上昇」こそが、悲劇をもたらすのです。じつは急激にカルシウムの血中濃度が上がると、体は血中のカルシウム濃度をなんとか通常値に戻そうと恒常性コントロールが働き、血中 余剰カルシウムを腎臓から尿に排泄してしまうのです。つまり、カルシウムをとるために飲んだ牛乳のカルシウムは、かえって体内のカルシウム量を減らしてしまうという皮肉な結果を招くのです。牛乳を毎日たくさん飲んでいる世界四大酪農国であるアメリカ、スウェーデン、デンマーク、フィンランドの各国で、股関節骨折と骨粗鬆症が多いのはこのためでしょう。

預言の霊

食事と食物に関する勧告324番：私は彼らに「卵を食べてはいけない、牛乳もクリームもいけない。料理にバターを使ってはならない」と言うことはできない。福音は貧しい人々に宣伝伝えられなければならないのであって、最も厳格な食事を勧める時はまだきていない。

今日用いている牛乳やクリームや卵のような食品を廃さなければならない時がやって来るが、自分で真っ先に悩みの時をもたらし、死をもって自らを苦しめてはならない、というのが私のメッセージである。主があなたの前に道を備えて下さるまで待ちなさい。

しかし牛乳、クリーム、バター、卵などを使用することがもはや安全でない時が来れば、神はこれを示して下さることを私は申し上げたい。

牛乳やバターや卵に関する問題は自然に解決する。現在は、この点で我々に義務はないのである。あなたがたの寛容を皆に示しなさい。(Letter37, 1901 年)

食事と食物に関する勧告603番：食事の改革は漸進的に行いなさい。牛乳やバターを用いずに食物を調理する方法を人々に教えなさい。動物の病気が人類の罪悪の増加するのに比例して増しているから、卵や牛乳やクリーム、あるいはバターを用いることが安全でなくなる時が間もなく来るということを彼らに告げなさい。

同上606番：私に与えられた光によると、我々が動物性食品をすべて廃さなければならなくなる時はあまり遠くない。牛乳でさえも廃さなければならなくなる。病気が急増している。人間が世界を呪ったために、神の呪いがその上に及んでいるのである。(Union Conference Record, July 28, 1899)

※ 牛乳の使用については、廃するときまで漸進的に改革することをホワイト夫人は薦めている。使用しなければ栄養不足になる人々もいる。使用するなら、健康的なものを使うべきであるとしている。今日動物の病気が急増している。牛乳なしで栄養を満たすことがほとんどの国では可能である。今は廃すべきではないと言われたのは、1905年以前である。

「ヨーグルト神話」

私がこうした「ヨーグルト神話」に疑問を感じるのは、臨床現場では、ヨーグルトを常食している人の腸相がけっしてよいものではないからです。

「乳糖」を分解するエンザイムの不足が考えられます。乳糖というのは乳製品に含まれる糖分のことですが、これを分解するエンザイム「ラクターゼ」は、年齢を経るごとに減少していきます。でも、これはある意味で当たり前のことです。なぜなら「乳」というのは、赤ん坊が飲むものであって、大人が飲むべきものではないからです。つまり、本来ラクターゼは大人には必要ないエンザイムなのです。

乳糖はヨーグルトの中にもたくさん含まれています。そのため、ヨーグルトを食べると、エンザイム不足から乳糖をきちんと消化しきれず、その結果として消化不良を起こします。つまり、ヨーグルトを食べると、軽い下痢を起こす人が多いということです。この軽い下痢によってそれまで腸内に停滞していた便が排出されたのを「乳酸菌のおかげで便秘が治った」と勘違いしてしまっているというわけで

す。

ヨーグルトを常食していると、腸相は悪くなっていきます。これは三十万例の臨床結果から自信をもっていえます。もしあなたがヨーグルトを常食しているなら、便やガスのおいがか強くなっているはずで、これは腸内環境が悪くなってきている証拠だと思ってください。くさいのは、毒素が腸内で発生しているからです。

ガン患者の食歴を調べていくと、動物食（肉や魚、卵や牛乳など動物性の食物）をたくさんとっていたことがわかりました。しかも、早い年齢で発病している人ほど、早くから動物食（とくに肉、乳製品）を多く、そしてひんぱんにとっていたことがわかったのです。

乳ガン、大腸ガン、前立腺ガン、肺ガンなど、発病したガンの種類はさまざまですが、この傾向だけは同じでした。

そして、どんなガンを発病した人も例外なく腸相が悪かったのです。そのため、私は体のどこかにガンができた人は、大腸ポリープや大腸ガンができていいる可能性が高いので、必ずコロノスコープの検査を受けるよう、いつづけてきました。

大腸検査の提唱者である私のところにも多くのガン患者が来ていますが、結果は予想どおりでした。なかでも女性なら乳ガン、男性なら前立腺ガンを発病した人の大腸に異常が発見される確率は、とても高いという臨床結果が出ています。その結果を受けて、いまアメリカでは、乳ガンや前立腺ガンを発病した人は大腸検査を受けるといのがだいぶ浸透してきています。

油について:

現在一般的に市販されているオイルの多くは「溶剤抽出法」といって、原材料にヘキサンという化学溶剤を入れドロドロにしたものを加熱し、油を溶け出させたくうえで、さらに高圧・高熱下で溶剤だけ蒸発させるといいうやり方で作られています。この方法だとロスが少なく、加熱してあるので変質もしにくいのですが、この方法で抽出された油は「トランス脂肪酸」という体にとって非常に悪い成分に変わってしまうのです。つまり、腐敗（酸敗）しない代わりに体に害を与える成分が含まれているということです。

トランス脂肪酸は、自然界には存在しないもので、悪玉コレステロールを増やし、善玉コレステロールを減らすほか、ガン、高血圧、心臓疾患の原因になるなど、さまざまな健康被害をもたらすことが報告されています。

そのため欧米諸国では、食物に含まれるトランス脂肪酸の量に上限値を定め、それを超えるものは販売が禁止されています。しかし、残念ながら日本では、このような基準はまだ定められていないのです。

そして、このトランス脂肪酸を最も多く含んでいるのが「マーガリン」なのです。動物性脂肪酸のバターより植物性の油で作られたマーガリンのほうがコレステロールもないし、体によいと信じて使っている人は多いと思いますが、これは大きな間違いです。

マーガリンと同じくらい多くのトランス脂肪酸を含む油に「ショートニング」があります。家庭でショートニングを料理に使うことはほとんどないと思いますが、市販のクッキーやスナック類、ファストフードのフライドポテトなどにはたくさんのショートニングが使われています。スナック菓子やファストフードが体によくないとされている理由のなかには、こうしたトランス脂肪酸の問題もあるのです。

日本人の体に油ものは適さない

徳川家康は天ぷらが大好きだったという話は有名ですが、もともと日本には油を使った調理法というのはありませんでした。「揚げる」という調理法が日本に伝わったのは、安土桃山時代のことといわれています。当時は「油」そのものが貴重品でしたから、伝わったとはいえ、庶民の口に入るようなものではありません。日本人が日常的に「揚げもの」を食べるようになったのは、江戸時代も後期に入ってからです。つまり、日本人が「油もの」を食べるようになったのは、ここ150~200年ほどのことなの

です。

これに対し、ギリシャ、イタリアなど地中海に近い国の人々は、古くからオリーブを栽培・多用していたため、オリーブオイルなど油を使った料理を昔から食べていました。その歴史は六千年近くもさかのぼることができるといいます。

こうした食文化の違いは、遺伝子の中に「油を消化する」システムとして組み込まれていると考えられます。油は膵臓で分解消化されるのですが、私の臨床データからいうと、日本人の膵臓の機能は古くから油ものを食べてきた国の人と比べて弱いようです。

胃のあたりの痛みを訴えるので内視鏡検査をしたところ、胃炎も胃潰瘍もなく、十二指腸に潰瘍ができていようすもないというケースが、日本人には多々見られます。そういう人は、血液検査をすると、たいてい膵臓の異常を示すアミラーゼ値が高いという結果が出ています。そして食歴を聞くと、揚げものが好きで食べる頻度も高いのです。

ところが、同じかそれ以上の油ものを食べていても、欧米人で膵臓にトラブルが発生する人はあまりいません。つまり、日本人の体は、欧米人のように油ものをたくさん消化することはできないということです。

もしあなたが、週に2回油ものを食べていて、上腹部に痛みを感じるようなら、膵炎を起こしている可能性があります。早めに膵臓の検査を受けることをお勧めいたします。とくに、動物性脂肪は控えているが、植物性の油なら大丈夫と、天ぷらや油炒めなどを好んで食べている人は要注意です。植物性の油であっても、人工的に抽出した油をひんぱんにするのは、やはり体のためにはよくないのです。

天ぷらや揚げものが好きでどうしてもやめることができないという人は、せめて回数を減らすようにしてください。目安としては、揚げものはせいぜい月に一度ぐらいに抑えることです。

私はほとんど揚げものは食べませんが、たまに食べるときは衣をとって、できるだけ油を摂取しないようにしています。それでは味気ないという人は、食べる量を少なくし、よくかんで食べるようにしてください。よくかんで唾液と混ぜることによって、トランス脂肪酸がある程度中和されるといわれているからです。それでもトランス脂肪酸のすべてが中和されるわけではありません。揚げものは、自分の体のエンザイム(酵素)を消耗するものだということを忘れないでください。

また、油で調理したものは、酸化が非常に早く起こります。作ってから時間のたった揚げものは過酸化脂質の塊のようなものです。油はただでさえ体によくないので、調理してから時間のたった油ものは絶対に口にしないようにしましょう。

わざわざ油を飲まなくても、自然のままの形の食物を食べていれば、食物に含まれる脂質から必要な不飽和脂肪酸をとることができるのです。

油はどのようなものであっても、空気に触れればすぐに酸化を始めます。ですから、できるだけ調理には油を使わないほうが良いのです。

しかし、一般的には、ビタミンAを吸収するには、油を使って調理したほうが良いといわれています。そのため、ひじきなどビタミンAを多く含む食材の調理法には、油を使用したものが推奨されます。これはビタミンAが「脂溶性」、つまり油に溶けやすい性質をもっているため、油と一緒にとったほうが摂取量は上がるとされているからです。

たしかにビタミンAは脂溶性のビタミンです。しかし、ちょっと工夫すれば、人工的に搾った油を添加しなくても、充分吸収することができます。なぜなら脂溶性のビタミンの吸収に必要な油の量はごく微量なものだからです。ですから、油を使って調理しなくても、大豆やゴマなど脂肪分を有している食物をほんの少し一緒に食べるだけで十分に吸収することができます。

人間に必要な油は、人工的に搾ったり抽出したりしたものを添加しなくても、脂肪分を含有した食物を自然の形のままとることで、必要量を十分にまかなうことができます。

自然な形のままとは、穀物、豆類、ナッツや植物の種など、油の原料となるものを、そのまま丸ごと食べるということです。それがもっとも安全で、もっともヘルシーな油の摂取方法なのです。

預言の霊

食事と食物に関する勧告488番：動物性脂肪(グリース)を用いず、できる限り自然の状態で調理された穀類や果物が、天に移されるために準備していると公言するすべての人の食物でなければならぬ。(2T 352, 1869 年)

※ カリフォルニア、サンタバーバラにある長生き研究所、ウイマー健康保養所などは植物油でさえ使用しない。「できるだけ自然の形のまま」を実行している。レタスにさえ脂肪はありと指摘されている。

預言の霊:「チーズは決して胃に入れるべきではない。」食事と食物に関する勧告 632 番。

「チーズは、なおいっそう避けねばならない食品で、食物としては全然不適當である。」

ミニストリー278頁

- ★ 白米は死んだ食べ物である。
- ★ 玄米のお薦め。
- ★ 酒とタバコは最悪の生活習慣である。

水の飲み方：

私が毎日実践している「よい習慣」の一つに、食事の一時間前に500cc程度の水を飲むということがあります。

健康のために「よい水」を毎日たくさん飲みましょうとよくいわれていますが、食事に「よい食べ方」があるように、水にも「よい飲み方」があります。ガーデニングや観葉植物を育てている人にはわかるとはと思いますが、植物もむやみに水をやると根腐れを起こして枯れてしまいます。水分を与えるのに適した「時間帯」と「量」があるのです。これは人間も同じです。

人間の体の大部分は水でできています。乳幼児で約80%、成人は60~70%、老人でも約50~60%が水分です。赤ちゃんの肌がぶるぶると「みずみずしい」のは、それだけ細胞に含まれる水分量が多いからです。ですから、フレッシュなよい水をたくさん飲むことは、人間の体にとってとても大切なことです。

口から入った水は胃腸で吸収され、血管を通過して全身の細胞に運ばれます。その際、血液の流れをよくし、新陳代謝がスムーズに行われるのを助けます。よい水は、血液中のコレステロール値や中性脂肪を減らすのにも効果があります。成人であれば、最低でも一日に2500~2000cc、高齢者でも最低2000ccは飲むことをお勧めします。

しかし、口から入るものは水だけではありません。それだけの量の水をいつ飲めばよいのでしょうか。

食事の直前に水を飲みすぎると、胃が水でいっぱいになってしまって食事が食べられなくなってしまいますし、食事中や食後では消化エンザイムが薄まり、消化・吸収の妨げになる可能性があります。食事中に水を飲むときは、コップ一杯（200cc）程度がいいでしょう。

また、夜寝る前や夜中に目覚めたときに、血がドロドロになるのを防ぐために、のどが渇いていなくても水を飲んだほうが良いと指導する医師もいますが、私はこの意見には反対です。夜寝る前の水分摂取は、先に述べた「逆流」を防ぐためにも避けなければなりません。たとえ水だけでも胃酸と混ざったものが気管に入り、それを肺に吸い込むと肺炎を起こす危険があるからです。

このように体のリズムを考えると、水の補給は日中、それも寝起きと食事の一時間前に行うのがもっとも理想的な方法と考えられます。水だけならば30分程度で胃から腸へ進むので、この方法なら食事の妨げになることも、消化の妨げになることもありません。

私が実践している水の摂取方法は、次のとおりです。

- ・朝、起き抜けに500~750cc
- ・昼食の一時間前に500cc
- ・夕食の一時間前に500cc

もちろんこれは一つの目安です。夏場や体を動かすことが多く汗をかきやすい人は、もっと多くの水分を必要としますし、胃腸が弱く、消化・吸収に時間がかかる人は、内容物が吸収される前に水分で流されてしまうので下痢をするかもしれません。体の大きさによっても必要な水分量は違ってきます。ですから、一日の水の摂取量には、一人ひとりの体に合わせた自己判断が必要です。もし、1500ccの水を飲んで下痢をするようなら、一度に飲む量を350cc程度に減らし、少しずつ増やしていくようにしてみてください。

預言の霊

「純粋な軟水を自由に(十分に)飲むべきである」 食事と食物に関する勧告727番

愛は免疫力を活性化させる：

「人はパンのみにて生きるのではない」というのはキリスト教の教えですが、これも自然の摂理の一つだったのだということを、私は多くの患者さんから教えてもらいました。

病気の人が、何か目標を得たとき、奇跡的に病気が回復することが実際にあります。ガンでとても苦しんでいた人が、苦しんだあげくに、何かをきっかけに感謝の気持ちをもてるようになり、そこから病気が回復していったという例は世界中にたくさんあります。

人間は誰も無限の可能性を秘めています。その可能性が開かれたときには、体中のエンザイムが活性化し、そのエネルギーは死の淵からその人を連れ戻してくれることさえあるのです。

逆に、どれほど体が健康であっても、毎日ネガティブなことを考え、毎日不幸だと思いながら一人寂しい人生を送っていたら、エンザイムはどんどん力を失っていきます。

ですから私は、ガンを治すというのはじつはそれほどむずかしいことではないと思っています。その人が心から自分は治ると信じ、自分が誰かを心から愛していることを悟ることができたら、その人は病を克服することができるのではないかと思います。

その人が心からハッピーになれるようなモチベーション(動機)をもたせてあげることです。

では、何が一番強いモチベーションになるのでしょうか。それはやはり「愛」だと思います。

人は本当に幸せを感じていると、免疫機能が活性化することが、血液検査でわかっています。

預言の霊

ミニストリー218-232：「精神と肉体の間には非常に密接な関係があり、一つが侵されると他もそれに伴う。精神状態が健康に及ぼす影響は多くの人々が認識しているよりもはるかに大きいのである。人間が苦しむ病気の多くは心の消沈によるものである。悲嘆、憂慮、不満、悔恨、自責、不信こうしたものがいっさい精力を破壊し、衰弱と死を招くようになる。

病気は想像から起ることがあり、想像によって非常に悪化する場合がしばしばある。自分は健康であると思えば健康でいられるのに一生病身でいる人が多い。多くの人は少しでも空気に身体を当てると病気になると考えているが、そう思いこんでいるために悪い結果になるのである。全然想像から起った病気のために死んでいく者がたくさんいる。

勇氣、信仰、希望、同情、愛は健康を増進し、生命を延ばす。満足した気持、快活な精神は肉体を健康にし精神を強める。「心の楽しみは良い薬である」(箴言17:22)。

病人を治療するには、精神的な影響を見のがしてはならない。正しくこれを用いるとき、その影響は病気と戦う最も有力な一つの武器となる」

「感謝と賛美ほど心身の健康を増進するものはほかにない」

結論：

預言の霊が与えられたホワイト夫人は、現代の医科学、栄養学、教育、子供のしつけ、その他の様々な分野でずっと先立っていることが多々ある。150年前に我が教会に与えられた天からの光に信仰によって従っていたら、今日、教会は預言の書にある神の約束を満喫して神の栄光を表して、黙示録18:1の天使の「地は彼の栄光によって明るくされた」ということの成就を見ていたであろう。

エゼキエル36:23 わたしは諸国民の中で汚されたもの、すなわち、あなたがたが彼らの中で汚した、わが大いなる名の聖なることを示す。わたしがあなたがたによって、彼らの目の前に、わたしの聖なることを示す時、諸国民はわたしが主であることを悟ると、主なる神は言われる。

新共同訳について世界総会聖書研究所とのやりとり

—そのいきさつ

沖縄で新共同訳聖書についての説明会があった。長窪前三育学院長は、「聖書はみなさんが考えているように、天からボンと落ちてきたのではないですよ。長年の学者たちの学問の成果なんです」と言われた。

2002年2月、私は教団「今泊グループを考える」特別委員会に呼ばれた。三育学院のT先生より、繰り返し投げかけられた質問は、「あなたは新共同訳聖書は、サタンの聖書と言うのですか」というものであった。「アンカーを見れば、そうしかとれない」という攻め方。私は「一度もアンカーでも、研究会でもそんな表現はした覚えがありません」と答えた。どこの何頁という証拠を挙げずに突っ込まれる質問に、「どう表現するかは考えさせてください」と答えるだけであった。

なぜそう答えたかという、確かに新共同訳聖書の目的は、共同訳聖書の序論にも書いてあるとおりに、「エキュメニカル(教会一致運動、合同運動)を目的として作られたものなので、サタンの意図するものであることは確かである。しかし、それを「サタンの聖書」と呼ぶことはしていない。ホワイト夫人は、ローマ・カトリック教会を「サタンの権力が生んだ一大傑作」「サタンの代表者」(大争闘上44)と呼んで臆することがなかったが、私はカトリック教会を「サタンの教会」という表現はしない。推論していくとそういうことになると思うが.....。

1964年、パチカン第二公会議においてカトリックからプロテスタントへ発信された「共同訳聖書」は、教会一致運動、あるいは合同運動を目的とするものであることに気づき、私はまず、口語訳聖書と新共同訳聖書の比較研究をしてみた。すると多くの違いがあることが分かった。さらに新改訳聖書とも比較してみた。文語訳聖書、明治訳聖書も買い集めて調べてみると、聖書は、徐々に変化してきたことに気がついたのである。なぜ、神の言葉が単なる表現だけでなく、教理上の変化をもたらすほどの換え方をしているのか不思議に思い、聖書翻訳の歴史を探ってみた。

19世紀半ばに、最後の真の教会が誕生するころ、サタンは多くの分野で偽物を作り出した。同じ頃共産主義が生まれ、進化論が生まれ、偽預言者(クリスチャン・サイエンスのエディー夫人、モルモンヨセフ・スミス、エホバの証者のチャールズ・ラッセル)、ロックの先駆となるジャズの誕生等々と.....。

その同じ頃、聖書本文批評学が生まれた。フランスのカトリック司祭であったリチャード・シモンから始まった聖書本文批評は、19世紀の半ばにウエストコットとホルトによって開花した。

広くヨーロッパで使用されてきた「TR=公認本文」に基づいて1611年にかの有名な欽定訳が英語に翻訳された。それは、300年間も英語世界に君臨した聖書である。

ところが、1881年に欽定訳を「改訂」という名目でRevised Version=改訂訳聖書ができる。それは、欽定訳とその底本である「TR=公認本文」を用いて改訳したのではなく、底本を全く別なものに変えたのである。ウエストコットとホルトは、1848年にティシェンドルフによってカトリックの施設で発見されたシナイ写本とパチカン写本に手を加えて改訂に改訂を重ねて作り上げた底本から英語に訳したのである。その時、6,000の変更がなされたという。そこから現代聖書の翻訳が次々に、徐々に変えられていく。

そして20世紀の後半になって「共同訳聖書」が作られていく。全世界の聖書協会はエキュメニカル(教会一致運動)の流れに飲み込まれていくのである。もちろん、純粋な聖書を保存しようと戦っている聖書協会もある。トリニティー聖書協会のように。

全然気がつかなかったが、日本語の聖書も徐々に変えられてきたのだ。日頃唱えている「主の祈り」の最後の「国と力と栄えは限りなく汝のものなればなり」が口語訳聖書にも、新改訳聖書にも、もちろん新共同訳聖書にもないのだ。文語訳聖書にもない。大正三年の聖書まではあった。

変更、削除、追加が徐々になされてきた。特に新約聖書に多くなされている。これを学問の成果というのだろうか？ どういう変更がなされているかをリストアップした資料もある。何回か「アンカー」に

も載せた。

ちなみに、口語訳聖書でヨハネ7:53～8:11まで〔 〕とされているのにお気づきだろうか？マルコ16:9～20まで〔 〕がついている。どういう意味だろう？口語訳聖書、新改訳聖書、新共同訳聖書を翻訳するときに使った元となる写本、底本にはないが付加しておくという意味である。文語訳聖書には親切に「異本何節以下を欠く」と声明してある。明治訳聖書や大正三年の聖書にはそういう記号や説明もない。こういうことが多々あるのに驚いた。

となると、これらの聖句は神の靈感の言葉ではないのだろうか？英語欽定訳、明治訳聖書、大正訳聖書には「神の言葉」としてあったのが実はそうではなかったのか？学者が変えたりできるものだろうか？申命記4:2、黙示録22:18,19の警告の言葉を踏みこむことにならないのだろうか？

詩篇12:6,7によると、神は純粋な言葉を代々に保たれるとある(英語欽定訳、新改訳聖書参照)。しかし、現在手に入る聖書に純粋なものはない。どうしたらいいのだろうか？英語欽定訳聖書は、公認本文を元にして翻訳された最も正確性のある聖書であるといわれている。完全ではないが、カトリックの学者も欽定訳が最も正確であると証言している。しかし、皮肉なことに聖書翻訳の中でカトリックが最も憎んでいるのは欽定訳であるという。

だから、聖句の違いがあるときに、

① 欽定訳ではどう訳されているかということ調べることは非常に有益なことである。必ずしも完全訳とはいえなくとも最も正確に訳されている。しかし、それでも不明なときはどうすればいいだろうか？道はないのだろうか？あるのだ！

② 原語に問うことである。とはいっても、聖書を翻訳するにあたってどの写本を使うかが問題になってくる。ヘブル語も変えられてきた。特にギリシャ語の写本は多く改悪されてきている。ちなみに口語訳の定本は、ネストレーアラントの24版が使用され、新共同訳は聖書協会世界連盟(UBS)の三版が使われている。学者たちが手を加えてきているのである。だから、ギリシャ語を読める人の助けを得てもあまり意味のないこともある。

こんな話がある。ある教会の信徒が聖書翻訳の問題点を牧師に指摘した。「あなたは、信徒のくせにこんな問題を論議して何の意味があるか。原語で調べることだよ」「先生はギリシャ語お読みになりますか」「あたりまえだよ。神学校を出たのだから」「あ、そうですか。ではすみませんがマタイ18:11節は原語ではどうなっているんですか」快く調べてあげようと思った牧師「え？11節？11節はないですよ」

「公認本文」の聖書でなく、改悪されたギリシャ語の底本を使っていたので11節は削除されていたのである。

③ 1コリント14:32 にこう書いてある。「預言者の霊は預言者に服従するものである。」

我が教会には、エレン・ホワイトという預言者がいる。その書かれたものは「イエスの証＝預言の霊＝証の書」という。混乱させる学者の説にではなく、預言者がどのように聖句を扱っているかを調べることは、非常に有益である。

たとえば、先にあげた聖句の例をとると、ヨハネ7:53～8:11までの姦淫の女の話は、実際にあった話なのである。マルコ16:9～20までのイエスの弟子たちへの託宣は、実際にあったことなのである。各時代の希望に靈感を受けてホワイト夫人は注解している。

それを証の書から調べていくと、神のみ言葉に対する混乱は晴れ、証の書の靈感に対して確信から確信へと導かれるであろう。

では、なぜ、私は現在手に入る聖書で口語訳を選ぶのだろうか？

それは、セブンスデー・アドベンチストの現代の真理の土台を他訳では構築することができないからである。再臨信仰の土台はダニエル8:14である。天の至聖所におけるキリストの最後の仲保の働きを明確

にすることのできる聖書は口語訳聖書である。明治訳もOKである。文語訳もOKである。昭和の口語訳までは明確に再臨信仰を説明できる。しかし、新改訳、新共同訳ではできないのである。

ある人は、聖書によって教理は確立されるべきで、聖書によって確立されなければ教理を変えるべきであると論ずる。もっともなことである。しかし、その聖書が改悪されていたらどうだろう？

天の聖所はキリストのお働きの中心そのものである(大争闘下222)。再臨信仰の土台である(大争闘119)。ダニエル8:14、9:24-27から再臨運動が生まれ、セブンスデー・アドベンチスト教会が生まれた。しかし、その聖句が改悪されているなら、再臨信仰は構築できない。セブンスデー・アドベンチストの理由、立場を失ってしまうことになる。

「聖所と調査審判の問題は、神の民によってはっきりと理解されねばならない。すべての者は、自分たちの大なる大祭司キリストの立場と働きについて、自分で知っている必要がある。そうしなければ、この時代において必要な信仰を働かせることも、神が彼らのために計画しておられる立場を占めることもできなくなる。」 大争闘下222

そういう人は、「嵐が迫ってくる時」どうなるかと次のように預言されている：

「あらしが迫って来るとき、第三天使の使命を信じると公言しながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰(立場-原文)を棄てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般受けのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは、以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる。安息日遵守者が法廷に呼び出されて、信仰について答えるときに、これらの背教者たちは、サタンの最も強力な手先となって、彼らの中傷し非難する。」大争闘下378

今でも、セブンスデー・アドベンチストの立場と理由を失って出て行く人もいれば、単に長年の習慣として、ちょうつがいのように教会に出入りしている人も少なくはない。

新共同訳聖書は、最も信頼される写本に基づいて翻訳された聖書というのは大欺瞞である。黙示録の赤い獣に乗った淫婦のぶどう酒を飲んだ学者の言うことである。そんな欺きのぶどう酒を飲み、更に信徒にも飲ませる者は、セブンスデー・アドベンチストの信者の什一で支えられるべきではない。彼らを雇ってくれる教派は、他にたくさん見出せるはずである。

新共同訳聖書は、我が教会の基礎教理に抵触するか？

私は、新共同訳聖書を日本SDA教団が採用することになったとき、アドベンチスト・ライフに世界総会聖書研究所の承認があったというのが気になった。そこで個人的にリード先生に手紙を書いた。私の手紙と聖書研究所長の返事を付しておきたい：

世界総会聖書研究所とのやりとり

私の書いた手紙：

「ジョージ・リード先生：

私は日本三育学院で訓練を受けた信徒です。元は数年間牧会で働いておりました。私は預言された、真の最後の教会に属していることをほんとうに感謝しています。この教団を指導しておられる先生方のために我々は祈っています。

私がお手紙を差し上げている理由は、聖書翻訳についてです。

日本においては、1987年に新しい翻訳聖書が出版されました。日本の教団は、その聖書の序論にエキユメニカル目的のために出版されたとしているこの新しい聖書を公的に採用することになりました。9人のカトリックの学者がこの事業に参加しました。この聖書を採用することに関して、かなりの問題

が生じました。

現在、安息日学校教課の暗唱聖句には、新しい翻訳聖書について二つの意見があるので、二つの訳が使用されています。

どの聖書を選ぶかということに関してはアメリカにおいても異論がある事を知っていますが、今ここでは論じる必要がないと思います。

私がお尋ねしたいのはこれです。貴方は以前、ダニエル8:13,14のようなSDAの基本教理に抵触するようなことがあれば、その翻訳の使用は賢くないと答えられたことについてです(1994、9-26)。

私は、もし我々が新しい翻訳の聖書を使うならば、我々の特有な聖所の清めのメッセージを確立することができないと思っています。少しばかり例を挙げさせていただきます：

1. ダニエル 8:13,14 : 「日が暮れ、夜の明けること二千三百回に及んで、聖所はあるべき状態に戻る。」※従来の「清め」が使われていません。
2. ダニエル 9:25 「これを知り、目覚めよ。エルサレム復興と再建についての御言葉が出されてから油注がれた君の到来まで7週あり、また、62週あって危機のうちに広場と堀は再建される。」
3. ヘブル 6:19 「わたしたちが持っているこの希望は、魂にとって頼りになる、安定した錨のようなものであり、また、至聖所の垂れ幕の内側に入って行くものなのです。」
4. 黙示録 14:7 「大声で言った。「神を畏れ、その栄光をたたえなさい。神の裁きの時が来たからである。天と地、海と水の源を創造した方を礼拝しなさい。」
5. イザヤ 8:20 「そして、教えと証しの書についてはなおのこと、『このような言葉にまじないの力はない』と言うであろう。」※全く違った意味、前後関係も意味不明。
6. 箴言 2:18 「彼女の家は死へ落ち込んで行きその道は死霊の国へ向かっている。」
7. それにこの聖書は、アポクリファ=外典もくわえています。
8. 付録に「666について最も有力な説は、ヘブライ語でネロ皇帝と読む解釈である」としている。
9. 付録に「主の日とは、新約聖書では、キリストが再臨なさる時を意味する。ほかに、イエスの復活した日という意味で日曜日を指す場合もある」としている。
10. 聖句の削除、章と節が違っているので、従来の聖書と一緒に使うと混乱をもたらす。

新しい翻訳聖書にはいくつか良く訳しているところもある事を認めます。しかし、全体的に言って、この聖書では、セブンスデー・アドベンチストの教理の立場を説明できないと思います。

あなたのご意見を下されば幸いに思います。私の手紙を読むために時間を割いてくださることを感謝します。

貴方がこのすばらしい再臨運動の重責を担うにあたって、神の祝福が豊かにありますように！

キリストにあって、

金城重博

私は、聖書翻訳の権威者であるからという理由で、聖書研究所長宛に手紙を書いたわけではありません。彼の返事にもいろいろ議論の余地はあると思います。

ただ、新共同訳聖書は、我が教会の基礎であり、大黒柱である聖所の清めを証明する聖句に抵触しているのではないかということについて意見を聞いてみたに過ぎません。

新共同訳聖書を教会に定着させると、我々は厳粛な最後の贖いの日に生存しているとの意識が薄れ、セブンスデー・アドベンチストの立場を失い、教会の教勢を延ばすためには他教派から小グループ、セレブレーション・プログラムを取り入れ、教会の標準は低下し、主に会う備えから遠のいてしまうでしょう。セブンスデー・アドベンチストの特殊性を犠牲にすることになり、獣=ローマの大欺瞞に対して警告も発し得なくなり、バビロンから出よとも叫べなくなるでしょう。キリスト教派の一教派であるという認識にとどまってしまうでしょう。

日本では、共同訳聖書が突然1987年に世に出ました。プロテスタントとカトリックが水面下でこれほ

ど密に働いていたとは、一般のクリスチャンは誰も知らなかったでしょう。しかし、ローマ・カトリック教会は将来を見通すことができる目を持っています。「聖書、聖書のみ」を主張し、命をかけて抵抗してきたプロテスタントは、もはやプロテスト＝抗議をする力がない事を知った時にローマは、堂々とあからさまに「共同訳聖書」出版を提案したのです。

この度、弥永邦昭先生が「信頼できる一冊の聖書に辿りつくまで」という本を出版して下さいました。新共同訳聖書使用に対する適切な警告であると私も信じるので、読者の皆様にもぜひ一読してほしいと思います。

リード先生からの返事：

BIBLICAL RESEARCH INSTITUTE
(301) 680-6790



General Conference of

Seventh-day Adventists

CHURCH WORLD HEADQUARTERS • 12501 OLD COLUMBIA PIKE, SILVER SPRING, MARYLAND
20904-1608 USA TEL: (301) 680-6000 TLX: 440186 FAX: (301) 680-6090 CBL: ADVENTIST, WASHINGTON

「金城兄弟へ：

あなたの手紙がとどきました。あなたの手紙の少なくとも一部にはお答えできます。まず、あなたの英語の明確にして正確なことにおめでとうを申し上げたいと思います。

私は読めない日本語の翻訳にコメントできないことを理解していただきたいと思います。あなたは新しい翻訳聖書のいくつかの聖句を英語に訳して私にくださいました。もし、新しい聖書の聖句がご指摘のような読みであるなら、私が1994年に日本の教団の指導者たちに送った警告はまさに適切といえましょう。あなたが挙げた聖句の例は、聖句の意味が不明瞭にされています。ヘブル語、ギリシャ語では明瞭な点が不明瞭にされています。ある箇所は良く訳されているところもあるとあなたは指摘されました。問題は新しいものと同様に古い翻訳聖書も使うことによって解決されるでしょう。

問題は、聖書が何とっているかという信頼性であり、アドベンチストの教理が引き出され得る聖書であるかということではありません。もし欠陥のある翻訳に我々の教理が据えられているなら、率直にそれを認めて真の聖書的な信仰に移らなければなりません。しかし私は、主要真理にこのような事をしたケース（事例）を知りません。過去において、人々はマタイ24章の「この世代は過ぎ去ることはない」というような聖句にもとづいて推測をしてきました。しかし、それはあまり重要でないことであって、基礎的な真理ではありません。カトリックが翻訳に参加したということは、たいした問題ではなく、カトリックの学者たちがヘブル語、ギリシャ語が実際に言っていることを正直に扱っているかということです。エルサレム聖書は、今やいくつかのヨーロッパ語で手に入りますが、全くカトリックの学者によってなされました。しかし、ほとんどにおいて言語に近い訳をしていて我々にも受け入れられるものです。真の権威は原語の意味にあるのであって、あなたが挙げた例には失われている何かがあるようです。私に対するあなたの手紙は、質問というより抗議のように思えます。願わくは、我が教団の指導者たちが、他の教会と共に働こうとするときに聖書のメッセージを保持することにおいて用心するように願うものです。

あなたの友、

ジョージ.W.リード

世界総会聖書研究所長



パイナップル・ストーリー

オットー・コーニング

道徳感の低い人々の中に置かれて、はじめて自分が自称クリスチャンであることに気づかされた宣教師の尊い体験。なかなか自分の誠意に答えてくれない人々にどのように接していったか？ 笑いと感動の証。

・・・あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」(ルカ14:33)。

この教訓を教えるために、神様は私たち家族をパプア・ニューギニアへ送られました。その土地は非常にやせていて、作物が育ちません。何を植えてもうまくいかないの、最後の手段として、パイナップルを植えることにしました。しかし、パイナップルが収穫できるようになるまで、少なくとも三年はかかります。三年待って、ようやくパイナップルが実をつけ始めました。

ところが、その原住民は、まるで泥棒の集団でした。誰もが、生まれつき盗癖があるような状態でした。ある日、私たちが持っていたたった一つの缶切りが盗まれ、しばらくして、女性の首飾りになってぶら下がっているのを見つけました。赤ん坊のおむつを留めるピンは、ピアスになって女性たちの耳に突き刺さっていました。私のTシャツを着た人が(そこにはシャツを着ている人なんかいません)、私に魚を売りにやってきたこともあります。私たちの持ち物は、手当たり次第盗られました。当然、パイナップルの実がつくや否や、どんどん盗まれていきました。数ヶ月たっても、一個のパイナップルも手にすることはありませんでした。「連中よりも先に収穫すればいいじゃないか」という人もいるでしょうが、彼らは、パイナップルがまだ青いうちに盗んでいくのです。どんな果物でも、青いうちに食べてしまいます。バナナが黄色くなるなんて、知らないのではないのでしょうか。

母親たちは、子供たちの盗みの腕を磨くのに、私たちのパイナップル畑を訓練場として使いました。

その結果、私はいつも怒り、いらいらしながら、自分の持ち物を回収するのに忙しくしていました。現地の人々は、私のことを「けちで怒りっぽい白人」と呼びました。私も負けてはいません。「君たちさえいなければ、私はいい宣教師でいられるのに」と言って反撃しました。事実、彼らに出会うまで、自分が怒りっぽい人間だとは知りませんでした。皮肉にも彼らの存在によって、私自身の醜さも明るみに出されることになったわけです。

宣教の傍ら、看護師である家内が診療所を開



いていました。私は彼らに、「盗むのをやめないと、診療所を閉鎖するぞ」と言いました。この脅し文句は全く効果がなかったので、仕方なく診療所を閉鎖しました。ところが、ある子供が病気で死んでしまい、彼らはそれを私たちのせいにしてしまいました。無論、持ち物よりも人命のほうが大切なので、診療所を再開することにしました。雑貨店も開いていたので、盗みをやめさせるために、雑貨店を閉鎖しました。今度は彼らの方が怒ってしまい、「けちん坊の白人」という捨てぜりふを残し、こぞってさらに良い獵地を求めて引越してしまいました。

周りに原住民がいない生活！それは、まるでリゾート地でのバカンスでした。彼らは、私たちの生活を一日二十四時間監視していました。それもあからさまに窓から家の中を覗くし、たまに家族でピクニックに行っても、必ずついてきます。そんな彼らがいなくなって、どれほどほっとしたことでしょう。パイナップルも食べ放題！毎日、読書と手紙書きに明け暮れました。

ところが数週間が経過し、パイナップルにも読書にも飽き、何よりも良心が痛みました。私たちの宣教活動は、信徒の皆さんの献金によって支えられているわけですから、伝道地において悠々自適に生活するのは間違っています。ある日、たまたま通りかかった男の子に頼んで、原住民の人たちを呼び戻しに行ってもらいました。

数日たって、「先生、ただいま」と言いながら、彼らは戻ってきました。言われなくても、原住民が戻ったことは臭いで分かります。彼らは、決してお風呂に入らないのですから。とにもかくにも、彼らは戻ってきました。再び、持ち物が次々

と盗られました。再び憤慨し、いらいらする日々が始まりました。「けちで怒りっぽい白人」と言われて非難されました。「そんなことないよ。君たちとさえ関わらなければ私は善人なんだ」と心の中で反論するものの、むなしく響きました。

ある日、買出しに行き、大きなシェパード犬を手に入ってきました。原住民は、その犬をとっても怖がりました。私の企みは、初めて功を奏したように思われました。パイナップルも、他の持ち物も、被害にあわなくなりました。ところが・・・、結果は思わしくありませんでした。犬がいるおかげで、誰も伝道所を訪れなくなりました。伝道所から数百メートル離れたところに家内の診療所があったのですが、診療所にやってくる大勢の人が、建物の中ですし詰め状態になりました。誰も外に出たがりません。仕事ができなくなった家内は、「犬を処分して」と言いました。それで、仕方なく犬も手放すことにしました。

次の対策は？やれることは何でもやりました。次に、譲歩策をとりました。私にしてみれば、大変な譲歩です。原住民を呼んで、私はこう言いました。「パイナップル畑の真ん中に目印をつけました。この目印から向こう側のパイナップルは君たちのだから、好きなだけとりなさい。但し、目印からこちら側のパイナップルは私のだから、とってはいけない」。

それでも、彼らは私の側からも盗みました。さらに悪いことに、盗難を現行犯で見つけて注意すると、すばやく反対側に飛び移って、その場で悪びれる様子もなく、にやにやして立っています。私はすこぶる気分を害しましたが、反省し、神様に「もう二度と腹を立てません」と約束しました。私は宣教師であるのに、原住民に対して腹を立てては、彼らをキリストに導くことなんかできません。そのように考えて、心を入れ替えようとしたことが何度もありました。

しかしある時、男がパイナップルをいくつも抱えてやって来て、「先生、パイナップル買わないか？」と言うではありませんか。「他人の物を盗んでおいて、よくも被害者のところにそれを売りに来られたものだ」と思い、またもや腹を立ててしまいました。失敗です。

ある日、畑に立派なパイナップルがなっているのを見つけ、二週間もすればおいしく熟することが分かり、苦肉の策として、草をかぶせてパイナップルを隠すことにしました。そろそろ熟しただろうと思った頃に草をのけて見ると、パイナップルは陰も形もありません。再び、くやしい、腹立たしい感情に襲われました。腹を立てては告白し、赦していただく、といった経験の繰り返しでした。

神様は何度まで、私たちの罪を許して下さるのでしょうか。七の七十倍でないことに、私は感

謝しています。そこで神の恵みが尽きてしまうなら、私たちは生きていけなくなります。一日一回だけ罪を犯したとしても、七の七十倍なら、一年と三分の一で神の恵みを使い切ってしまうことになります。ヨハネ第一の手紙1章9節の約束に感謝しましょう。

「もし、わたしたちが自分の罪を告白するならば、神は真実で正しいかたであるから、その罪をゆるし、すべての不義からわたしたちをきよめて下さる」。

怒りの罪を止めることのできなかつた私は、大いに悩みました。できることは何でもやりました。子供に諭すように、彼らの説得に努めたこともありました。「ここの土地は、私が君たちの酋長から買ったのだから、ここの畑でできるものは、すべて私のものではないだろうか？」分かったのは、私の畑からパイナップルを盗む人たちは、私に雇われてパイナップルを植えるのを手伝った人たちが多かったということでした。

彼らはこう言いました。「ここのパイナップルは、俺たちのものだ！」私は向きになって、「何を言ってるんだ。私がここの土地を買い、自分のお金でパイナップルの苗も買い、君たちに報酬を払ってパイナップルを植えてもらったのだから、ここのパイナップルは私のだろうか？」と反論しました。しかし彼らは、「確かに畑は先生のもの。パイナップルの苗も先生のもの。だけど、パイナップルの実は俺たちのものだ。」彼らの説明によると、植えた人がその実を食べるのがしきたりだと言うのです。

彼らの言い分はこうです。「パイナップルの苗を植えたのは、先生ではなく俺たちだ。だから、パイナップルは、当然俺たちのもの！」自分の物でもないパイナップルを盗られて、私が怒るのは不思議千万だ、と彼らは言うのです。皆さんは、そのような経験をしたことがありますか。私たちの持ち物は、すべて神様のものですよね。それらの持ち物の故に、私たちが怒ったり、やきもきしたりするのは、実は的外れなことなのです。そうすべきではありませんでしたが、私はパイナップル畑のことで大いに頭を痛め、睡眠不足になるほどでした。

そのような矢先に、休暇をもらってアメリカに一時帰国しました。実は、家内も私も、パプア・ニューギニアには二度と戻りたくない、本部に嘆願するつもりでした。「あのような泥棒連中のいる場所以外なら、どこに派遣されてもいいです」と祈りました。皆さんは神様に、「・・・以外の場所なら、どこにでもまいります」と訴えたことがありますか。

一時帰国してから間もなくして、シカゴで催されたあるセミナーに参加しました。二日目の晩、講師のお話は、「権利」についてでありました。

講師は時間をかけて、権利を放棄することについて話していました。お話の間、私は伝道地のパイナップル畑のことばかり考えていました。

お話を聞けば聞くほど、私は惨めな気持ちになっていきました。彼はこう言うのです。「あなたの所有物を神様に明け渡しなさい。神様は、ご自分の財産を上手に管理なさいます」と。「そんな事、考えたこともない」と私は思いました。そして講師は、「あなたが正しい動機をもって神様に明け渡すならば、それが何であっても、決して不足することはないでしょう」と言いました。それは真実で、実に聖書的です。自分の持ち物を神様に明け渡すならば、それが何であっても、神様の支配に入るわけですから、その物（者）に対して、私たち以上の能力が発揮されることになります。神様の支配に入れられたものは、決して不足することがありません。講師はこうも言いました。「人と争い事を起こすなら、その人をキリストに導くことは決してできなくなります」。

それを聞いて、私はさらに落ち込みました。「確かにその通りだ。伝道地において、私と争っている人が死んでしまったら、その人は永久に失われることになる。それなのに私は、パイナップルのために争っているだけではないか。神様は、こんな私を赦しては下さらないだろう」と思いました。

でも神様は、このような私でも赦して下さいました。話を聞いている間中、私は泣いていました。彼はこうも言いました。「自分の権利を守ろうと躍起になっていたら、健康も損ねてしまいますよ」と。まさに、私のことを言っているようでした。

私はノイローゼになりかけていて、精神安定剤を服用していました。宣教師にとっては、あるまじきことです。心身ともに、ボロボロになりかけていました。私は決心して、「神様、パイナップル畑をあなたに明け渡します。御心のままに、どうにでもなさって下さい」と祈りました。

すると、天来の平安で心が満たされたのでした。会場から出てくるときの私は、まるで、負いきれなかった重荷から解放されたような状態でした。「神様、もうパイナップル畑のことで腹を立てる必要はないのですね。」何とも言えない解放感に浸り、自由の身になった感じがしました。

ジャングルに戻った私は、パイナップル畑でひざまずいて祈りました。「神様、これはあなたの畑です。ここにあるパイナップルを現地の人たちに恵みたいとあなたが望まれるなら、それでも構いません。しかし、もしあなたのパイナップルを、この忠実な僕に与えたいと望まれるなら、大いに感謝いたします！」皆さんは笑っていらっしゃいますが、今になって振り返れば、私はパイナップルを恵んでいただくのにふさわしくない者

でした。

パイナップル畑を神様に明け渡して以来、パイナップルの実りは驚くべきものでした。確かに神様は、パイナップルの上手な育て方をご存知であります。彼は、私たちの誰よりも上手に、どんなものでも育てることがおできになります。条件は、私たちが神様にそうするチャンスを与える。神様は決して、ご自分からしゃべることはなさいません。もし私たちが自分の力に頼るなら、私たちが四苦八苦することを神様はお許しになります。

さて、神様が大きく立派に育てて下さったパイナップルを誰が食べるのか、私は注目していました。あのような人食い人種の異教徒たちに、パイナップルが盗られてしまうのを、神はお許しになるだろうか？献身した宣教師である私に、与えて下さるだろうと、私は期待していました。しかし結局、その年も、原住民の人たちがパイナップルを盗んで食べてしまいました。

私は以前にも増して、腹を立てていました。「神様に捧げたパイナップルを、神様のパイナップルを盗んで食べるとは、本当にけしからん奴らだ」と思い、義憤に燃えていました。自分は、神のために、神に代わって憤慨している、と思っていたのです。セミナーに参加して以来、パイナップル畑は神様に明け渡したにもかかわらず、私はなおも腹を立て、神経をすり減らしていました。

皆さん、怒ってばかりいたら、健康を損ねてしまいます。私がそうでした。私はひざまずいて、神様に訴えました。「神様、私はもう限界です。あなたのためにパイナップルを守る体力も、気力も残っていません。あなたがご自分で、パイナップルを守るしかありませんよ」。

その時神様は、ローマ人への手紙6章から、自己に対して死ぬことを教えて下さいました。パイナップル畑に関する私の権利を完全に放棄すべきことを、神様は示して下さいました。万策尽きていた私は、神様の方法にすぎるしかありません。私は改めて、パイナップル畑に関する私の権利、パイナップルを食べる権利を、全く放棄する決心をしました。

祈り終えた私は、再び天来の平安に満たされました。「もうパイナップルの心配をする必要はないのだ。決して再び、パイナップルのことで腹を立てる必要はないのだ。自分は死んだのだから」。過去七年にわたる習慣になっていましたから、パイナップルを盗んでいる人を見ると、思わず頭にきて、怒鳴りたくなることもありましたが、少しずつ、そのような怒りも抑えることができるようになりました。そしてついには、パイナップル畑で起こっていることが、全く気にならなくなりました。

ある日、ハイモというとても理知的な原住民

がいて、彼に、「先生も、とうとうクリスチャンになりましたね！」と言われました。「どうしてか？」と尋ねたら、「この頃、先生は全く怒らなくなりました。本当のクリスチャンです」と言うのです。これにはまいりました。皆さんも経験があるでしょうが、私たちの隣人は、これまでに私たちが行った良い事よりも、悪いことの方をよく覚えています。皆さんの隣人も、クリスチャンである皆さんが、完全であることを期待しているのです。でも、完全ではない私たちが、どうしてキリストの証を立てることができるのでしょうか？

そこで、世の人々は、クリスチャンである人とそうでない人の違いを、どこに見ているのだろうか、と私は考えました。過去七年にわたって、私は現地の人々に、キリスト教について、キリストがどのようなお方であるか、クリスチャンはどのような生き方をすべきであるか、等を説いてきました。すると、彼らはこう言うのです。「先生、あなたがクリスチャンについて語るのを聞いたときに、いずれそのような人に会えるのだろうと思っていました」。言っていることとやっていることが合わないわけです。彼らは私の宣教を聞いても、見ているのは、腹を立ててばかりいる私の姿でした。そうすると、私の伝えるメッセージは無効となります。

ハイモが私に、「先生はどうして怒らなくなったのですか？」と尋ねました。私は、「畑はもうあげてしまったから」と答えました。さらに彼は、「では今、パイナップル畑を所有しているのは誰ですか？」と尋ねました。そこで、「その質問には、明日答えるから」と言っておきました。別れる直前に、ハイモはもう一度質問してきました。「先生、お願いだから答えて下さい。畑の新しい持ち主は誰なんですか？」私は、「もう遅くなったし、明日また戻ってきなさい。持ち主が誰かは、明日教えるから」と言って、自分の家に入りました。

カーテンの隙間から外を覗いてみると、ハイモがそこにいた人たちに、片っ端から、「畑もらわなかったか？」と尋ね回っていました。その後で、家の方に向かって、「先生、持ち主が見つかりません。誰だか教えて下さい」と叫んでいました。私は、「明日また戻ってきなさい」と叫び返しました。立ち去りながら、彼らは互いに何と言っていたと思います？「持ち主が誰だか分らないければ、盗むことはできないじゃないか？！」

その晩は、あの泥棒たちにとって、苦悩の晩となりました。村の酋長の所有かもしれない、あるいはまじない師の物かもしれない、と考えると、盗むことはできません。夜中に、村中がざわついているのに気がつきました。数人の男たちが、畑の新しい所有者を求めて、村中の人たちを起こして回っていたのです。見つからなかったのも、彼

らは隣村まで訪ね歩いたそうです。当然、持ち主は見つかりませんでした。

翌朝早く、村人たちの声で目を覚ましました。外を見ると、村中の人々が私たちの家の周りに集まっているようでした。私はその訳を知っていましたが、家内は知りません。早朝に押しかけてきた村人たちを見て、家内はびっくり仰天し、怖がってしまいました。私は彼女に、「大丈夫、何の問題もないから。見ていろよ、今に面白いことになるから」と言って、一緒に外に出て行くよう促しました。

外に出てみると、村の人たち全員が集まっていました。私がニコニコしながら、「お早う！」と挨拶すると、彼らは一斉に、「パイナップル畑の持ち主は誰なんですか？」と叫びました。「畑は天の神様に差し上げました」と私は答えました。今度は一斉に、鼻をこすり始めました。それは、彼らが考えている時の仕草です。とてもおかしな光景でしたが、彼らは大真面目に考えているので、私は必死で笑いをこらえました。考えた挙句の質問が、「先生の神様がいる天国には、パイナップルがないのですか？」というものでした。私は、「知らないけど、とにかく差し上げたのだ」と答えました。

ある男が、「先生、パイナップル畑は、何ヶ月くらい前に差し上げたのですか？」と尋ねました。私も鼻をこすりながら、「そうだなー、五、六ヶ月前かな」と答えました。すると、次第に騒ぎが大きくなって、彼らは興奮し、とうとう怒り出しました。そして、彼らは言いました。「先生、家の中に入り、ひざまずいて神様に頼んで、畑を取り戻して下さい」。私は、「いや、畑を差し上げてからというもの、私は幸福になったのだから、取り戻したいとは思わない」と答えました。

心配の種はなくなり、夜もぐっすり眠れるようになり、怒らなくなると、心身の健康も取り戻しつつあったのですから。所有権を放棄して、私は幸福を得たのです。皆さんも、裕福な人をうらやましいとは思わないで下さい。裕福な人は、そうでない人の考えも及ばないほどの悩みを抱えているのですから。

彼らは、「我々が先生に所有権を取り戻してもらいたいんです」と言いました。「何故？」と尋ねると、「とにかく、先生は間違いを犯したのだから、畑を取り戻して間違いを正して下さい」と言うのです。私は、「自分が間違っただとは思っていない。かえって最善の事をしたと思っている」と反論したら、「先生がすべての問題の原因なのだから」と言われました。

よくよく話を聞いてみると、私がパイナップル畑を捧げて以来、彼らの間では、災いばかりが起こっているようなのです。祈禱師に頼んでも、いけにえを捧げても、災いは一向にやみません。

彼らがパイナップルを盗むので、神様が働かれて、ご自分の所有を守ろうとされたのです。神様の管理は絶対ですから。雨が降らなくなり、畑の作物が育たなくなり、川でも魚が獲れなくなり、猟をしても、何も獲れなくなりました。女性が妊娠しなくなり、このままでは敵の数が勝るようになって、征服されてしまうという不安に駆られていました。すべてがうまくいかなくなり、彼らは真剣にその原因を探っていたそうです。

彼らは私を指さして、「先生が、すべての災いの原因なのだから、早く畑の所有権を取り戻して下さい」と要求しました。「私は、畑を取り戻したくありません」と答えると、「それはだめです。先生の神様が持ち主では困るのです」と言います。このような押し問答が、しばらく続きました。

「君たちが、パイナップルを盗むのをやめたらどうか？」と提案すると、「先生は頭が悪いですね。そんな事、うまくいくわけじゃないですか」と却下されます。彼らは慢性的な盗癖があるため、どうしても盗みをやめることができないのです。私たちは、どのような欠点であっても正すことができるべきですね。なぜなら、コリント人への第一の手紙10章13節において、「のがれる道」が保証されているからです。誘惑に遭ったなら、サタンに抵抗することです。「悪魔に立ち向かい〔抵抗しー欽定訳〕なさい。そうすれば、彼はあなたがたから逃げ去るであろう」（ヤコブ4：7）。

私たちクリスチャンは、自分自身の慢性的欠点に打ち勝つことができるのです。しかし、異教に染まったニューギニアの人たちは、サタンの力に支配されていたため、どうしても盗みをやめることができません。誘惑に遭って、それに抵抗することができませんでした。彼らは執拗に、私がパイナップル畑の所有権を取り戻すよう求めました。

私は、どうすればよいのか分からなくなりました。私が言うことを聞かないので、彼らはイライラを募らせました。このままでは、連中に殺されかねません。家内は私に、「これから面白くなると言ったじゃありませんか？」とこぼしました。もはや、笑える状況ではなくなりました。私は心の中で、短い祈りを捧げました。すると、ハイモの名が心に浮かんできました。すぐに、「ハイモ、君はどこにいるんだ」と叫びました。

群衆の中からハイモが現れて、私のそばにやってきました。ハイモは笑いながら、「先生はクリスチャンになったので、畑を所有することができなくなったのですね」と言いました。ハイモの言葉を聞いて、ある聖句を思い出しました。長年の間、わたしが理解に苦しんだ聖句です。「…あなたがたのうちで、自分の財産をことごとく捨

て切るものでなくては、わたしの弟子となることはできない」（ルカ14：33）。

キリストの弟子になるというのは、キリストの配下になるということです。クリスチャンになったと公言しながら、自らの権利を主張することもできません。しかし、キリストの弟子になることはできません。なぜなら、キリストがすべてのものの主、すなわち所有者であられるからです。キリストの弟子となったクリスチャンだけが、世の人々に証をすることができるようになります。なぜなら、自称クリスチャンと真の弟子の違いは、必ずその人の行いに表れるからです。ハイモは、「もし畑の所有権を取り戻したら、先生は再び怒りっぽい白人になって、クリスチャンではなくなるんですよ」と言いました。私は、「ハイモ、その通りだから、その事を村人に伝えてもらえないだろうか」とお願いしました。

ハイモは両手を挙げて人々の騒ぎを鎮めてから、演説を始めました。「皆の衆、聞いてくれ。先生がクリスチャンになって以来、みんなに対してとても親切になっただろう？もし彼が畑の所有権を取り戻したら、またまたいやな奴になってしまうぞ。所有権の問題は、そのままにしておけばいいではないか？」それを聞いた村人たちは、「ハイモ、お前も頭がおかしくなったのか？先生の神様が畑の所有者だと、俺たちは死んでしまうぞ。お前も飢えて困るだろう？」と言って、今度は彼に向かって怒っていました。するとハイモは、「畑のそばを通過して、パイナップルを盗まずにいられない人は、別の道を通ればいだろうか？必ずしも、この道を通らなくてもよいのではないか？」と提案しました。彼の言わんとするのは、もしもアルコールの問題を抱えている人がいれば、その人は飲み屋の近くを通るべきではない、ということです。彼は続けて、「畑のそばを通らなければ、パイナップルの匂いがすることもなく、パイナップルのことが全く気にならなくなるだろう？先生の神様に畑を所有させておけば、先生はクリスチャンでいられるんだから」と言いました。

私は彼に、「ハイモ、私はクリスチャンになれて嬉しい。だから、クリスチャンでいさせてくれ」と言って訴えました。ハイモも、「先生は、心底クリスチャンになりたがっているのだから、そうさせてあげようじゃないか」と力説しました。村人たちは再び鼻をこすり始め、懸命に考えているようでした。私は黙って、事の成り行きを見守っていました。

とうとう一人の男が、「先生、先生の神様は、暗闇の中でも見えるのか？」と質問しました。私は、「その通り、神様は暗闇の中でも見える」と答えました。それはまさしく、彼らが全知全能の神について抱いた、最初の悟りのようなものでし

た。またそれは、彼らのうちに罪の自覚が生じた兆候でもありました。暗闇の中でも見える神は（ほとんどの罪は暗闇の中で行われます）、すべてをお見通しであられるから、神を欺くことは決してできないことを、理解し始めたのでした。

別の男が、「先生の神様は、大きい神様か？」と尋ねました。私は、「その通り、とてつもなく大きい神様だよ。彼は雨を支配し、君の奥さんが妊娠するかしないかを左右し、川の魚も、野の獣も、すべてを支配しておられる。神様の助けがなければ、息もできなくなる。神の生命力が注がれなければ、みんな死んでしまうんだよ」と答えました。男は感心した様子で、「ああ、本当に大きい神様だ。もう、神様のパイナップルを盗むのはやめろ」と言いました。恐怖心に駆られて、群衆の半分はパイナップルを盗むことをやめる決心をしました。神に対する恐れを抱くことにより、人は回心へと導かれます。

群衆の半分は、なおもパイナップルを盗み続けました。ところが、不思議なことが起こり始めました。パイナップルを盗まない決心をした人たちは、次から次へと私のところにやって来て、「先生の神様は大きすぎるから、もうパイナップルは盗みませんよ」と宣言しました。私は、「それは良かった」と言いました。その人たちは、真理の御言葉にも心を開くようになり、キリスト教に改宗していきました。

ある朝早く、彼らは私を起こして、「先生、外に出てきて下さい」と促します。出てみると、たくさんのパイナップルが家の前に並べられています。彼らは、「パイナップルを家の中に入れて下さい。パイナップルを盗むのは、良くない事です」と言いました。その時分かったのですが、教会に加わった青年たちが交替で、パイナップル畑を昼夜見張っていたそうです。私が眠っている間に、彼らは無報酬で、自主的に畑の見張りをしてきていたのです。全く信じられませんでした。本当に神様は、ご自分の財産を上手に管理なさるお方であります。結局、パイナップルは青年たちと仲良く分けました。そして、みんなで神様に感謝の祈りを捧げました。

パイナップル畑を神に明け渡してからというもの、私は畑にほとんど足を運んでいませんでした。雑草が伸びて、抜かなければいけない状態にあることも知りませんでした。最初私は、畑は神様の所有だから、神様が自分で雑草も抜けばいい、とっていました。しかし、それは間違いでした。神様が所有者で、私はマネージャー、つまり管理人として働くべきなのです。

その後私は、バナナの木も神様に捧げました。神様は、バナナも驚くほど上手に栽培なさいます。木が倒れそうになるほどの大きな実をつけたのです。それから、農作物はすべて、神様に捧げま

した。いつしか、輸出できるほど果物があふれていました。物資を運ぶ飛行機が来るたびに、来た時よりも多くの物資（果物）を載せて、他の地方にいる宣教師たちのところに届けました。他の宣教師たちは、「あんなに立派な果物を、どこで手に入れたんだ？ どうして君だけが、パラダイスのような場所に派遣されたのだ？ 不公平ではないのか？」と言ってきました。果物の木を神様に捧げるまで、あそこはパラダイスでも何でもありませんでした。宣教師たちは、「原住民たちが果物を盗むのを、どうやって防いでいるのだ？」と尋ねてきました。

私の答えはこうです。「あなたの持ち物を、神様に捧げなさい。神様は、ご自分の持ち物を上手に管理なさいます」。そして私は、すべての権利を放棄し、神様に明け渡すことについて自分の経験から彼らに話すことができました。

ところで、パイナップルを盗み続けた人たちが、どうなったと思いますか？ 盗みを働いた人には、必ず何か良からぬ事が起こりました。家族の誰かが病気をしたり、家が火事になったり、家畜が死んでしまったりと、何かが起こりました。神様が、彼らにプレッシャーを与えておられたのです。泥棒をやめない人には、教会の青年たちが、「君は、先生の果物を盗んでいるだろう？ だから、こんなことが起こるんだよ。先生の神様は、大きい方なのだから」と言って回っていたそうです。

いつしか、盗みを働いていた連中は恐怖に襲われるようになりました。泥棒するたびに、災いが起こったのです。ある朝、私の家の前に、バナナやパイナップル、またその他の果物がぎっしり置かれていました。盗んだ人たちが、呪いが解かれることを願って、盗んだ果物を返してあったのです。果物だけではありません。これまで盗まれた物が、次から次へと返ってきました。とても、現実とは思えないほどでした。そういったプレッシャーのために、もはや誰も私たちの物を盗まなくなりました。挙句の果ては、雑草を抜いてくれる人を雇おうと思っても、怖がって畑に入ろうともしません。

ある時、休暇で家を留守にすることになったので、「畑でなる果物は、何でも好きなだけとって食べなさい。腐らしてしまっても、もったいないから」と伝えたのに、三週間後に戻ってきたら、果物が木の下で腐ったまま放置されているではありませんか。「どうして食べなかったんだ？」と尋ねると、彼らは、「先生は食べると言ったけど、先生の神様はそう言ってないかもしれない。大きい神様だから」と答えるのです。今となっては、果物を処分するのに苦労しました。輸出できるほど、果物が溢れていました。皆さんの持ち物も神様に明け渡してみして下さい。決して不足することはなくなります。

神様が教えようとしておられる教訓を学び取るには、時間がかかりました。その後も神様は、畑の作物や持ち物だけでなく、私の時間、私の評判、私の計画、私の家族、自己、健康、お金、音楽など、生活のあらゆる方面における（自分のものだと思っていた）権利を明け渡すように、求められました。一つひとつの教訓を学び取るのは、まるで学校で、一年生から二年生へ、二年生から三年生へと進級していくようなものです。「自分のものとして保持しておくことのできないものを与える人は、賢明である」と言った人がいましたが、私は逆説的に、「自分のものとして保持しておくことのできないもののために躍起になる人は、愚かである」と言いたいと思います。

ようやく持ち物に固執することをやめ、すべては神のものであると悟ることができたと思ったら、つまり第一学年を修了するや否や、神様は、私を第二学年の課程へと導かれました。原住民が次から次へと私のところに押しかけ、いろいろな物を修理してくれとせがむのです。おかげで、多くの時間が奪われました。再び、いらいらの日々が続きました。修理を頼まれても断ればいいじゃないか、と皆さんは思われるでしょうが、私も一度それを試みました。

ところが、かえって問題が大きくなり、夜眠ることができないほどの窮状に陥ったことがあったのです。大切な時間が盗まれていくと感じた私は、心身ともにまいってしまいました。しかし、時間も神のものであることを悟って以来、時間も祭壇にささげることになりました。そうしたときに、この試練もまた、大きな祝福に変わったのです。

ある試練によって、私の評判が危うくなったこともありました。神様は、ある出来事を通して、私の評判が落ちることをお許しになりました。宣教師を辞めなければならなくなると思ったほどです。しかしその後、私は自分の評判も神様に明け渡しました。すると、私は伝道地全体の長に任じられることになり、指導者に抜擢されたのです。心へりくだる者を、神様は引き上げてくださいます。他人が私のことをどう思うかよりも、神様との関係の方が重要であると考えることができたためでした。

ある時には、子供が病気になり死にそうになったことがありました。医者がおらず、何の医療も受けられない状況でした。万事休すと思われたところで、子供を神様に明け渡し決心をしたわけです。その結果、子供はいやされましたが、八方ふさがりになるまで待つ必要はないのです。今すぐに、生活のあらゆる方面を、神様に支配していただいては如何でしょう。

健康に関しても同様です。健康になる権利を神に明け渡した時に、神のいやしを体験することができるのです。神様に向かって駄々をこねたり、

不平不満を言ったりするのではなく、あらゆる方面における自らの権利を喜んで明け渡すならば、はるかにめざましい成果を上げることができるのです。ですから、権利を放棄して喜び、神様の方法に任せましょう。神様は私たちの心の願いをご存知ですから、神様の定められた時に御業を行っていただきます。健康になる権利を明け渡していやされた人を、私は何人も見てきました。

私自身は、試練に遭うたびに最初は奮闘し、自分の力で問題を解決しようと思いました。結果は悲惨なものです。懸命にものがくばもがくほど、深みにはまって出られなくなります。

神様は、私たちの問題を解決する方法をお持ちです。皆さんが自分の方法で解決しようともがいている間、神様は介入ささいません。あなたが神様の方法に委ねるのを、忍耐強く待っておられるのです。かつての私のように、もがいている人はいませんか？その結果、心身の健康を損ねている人はいませんか？そのような人は今、神様にこう言っていただきたいのです。「主よ、私をお赦してください。私の畑をあなたにお捧げいたします。あなたの方法で管理して下さい」と。権利を明け渡す献身の祈りは、日ごとに捧げるべきものです。

日ごとに罪の赦しを請い、自らの権利を神様に明け渡すのです。そうする時に、心配と恐れは消え、怒ることもなくなります。解放されて自由になり、喜びに溢れる日々を送ることができるようになるでしょう。「天路歷程」のクリスチャンのように、十字架のもとで重荷が取り去られ、肩の荷が軽くなった状態で、天国への道のりを歩むことができるようになるのです。

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝



自然の薬局からの贈り物

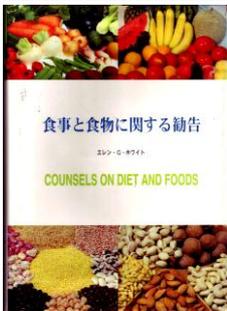
「抗生物質はバクテリアを殺すことができるが、単にそれは一部の種類にかぎられます。しかもバクテリアは、それらの抗生物質に対する抵抗力を身に付けていきます。ほとんどの消毒剤、殺菌剤などに対しても抵抗力を付けていくわけです。しかし、その抵抗力の発育を阻止しながらほとんどの病原菌を殺すことのできるものとして安全に用いられる方法があるのです。それが、さまざまな天然の力を調合した自然の力なのです」

人類史上始まって以来どんな研究所でもこれほどの力を持った殺菌剤を作った例はありません。それが純粋な天然の生はちみつなのです。そしてそれを調合するハチはまさに自然が作った天才的薬剤師なのです。



健やかな生き方：

本書は、E.G.ホワイトによって書かれた多くの本、雑誌、パンフレットから、J.H.ケログ博士の同僚であったデヴィッド・ポールソン医師によって編集され、1897年に「Healthful Living」として出版されたものである。既に翻訳されているものには見られない大事な健康に関する真理がもられている。健康改革をしたい人に多くの祝福を与えると共に、健康について研究する方々にも大きな指針を与える非常に有益な書物である。 価格：¥1200



食事と食物に関する勧告：

神の民を再臨に備える食事のあり方。再臨信徒の必読の書！
食事の肉体、知性、霊性に及ぼす影響、品性完成との関係！
栄養学の100年も先端を行く！ 灵感の書！

価格：¥2900

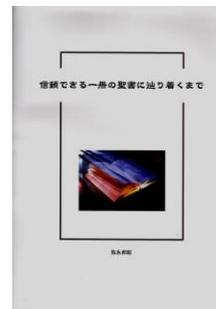


病気になるない生き方：

新谷弘実著

一読をお勧めしたい本。
各書店で買えます。

価格：¥1600



信頼できる一冊の聖書 に辿りつくまで：

弥永邦昭著

弥永先生の宗教体験と新
共同訳聖書使用に対する
警告！ 価格：¥500



2006年春の自然療法セミナー

セバスチャン・テーによる自然療法のセミナー。手近にあるものを使ってできる自然療法は、実用的で今後の医事伝道に多くの示唆を与えてくれた。

発行：サンライズ・ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471 電話：0980-56-2783 fax：0980-56-2881

Email: sancho@cosmos.ne.jp

郵便振込み番号：02080-0-12121 (サンライズ・ミニストリー)